

第11回 芸能実演家の活動と生活実態に関する調査

<スタッフ編>

結果速報

2025年6月



GEIDANKYO

公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 [芸団協]

目次

■ スタッフ部門 調査概要 [p.3](#)

■ <参考> 調査結果の見方 [p.4](#)

■ 結果速報 スタッフ

【活動に係る基礎情報】

A_1、A_2、A_3 活動分野、活動年数・報酬の年数 [p.6](#)

B_1 所属 [p.8](#)

B_2 年間の仕事量・日数 [p.9](#)

B_3 教える仕事の状況 [p.11](#)

B_4 年収 [p.13](#)

B_5 活動別収入割合、報酬形式 [p.14](#)

【時事的テーマ】

C_1 インボイス制度について [p.15](#)

C_3 フリーランス・事業者間取引適正化等法について [p.19](#)

【意識調査】

D_1 仕事の機会（2019年と比較して） [p.27](#)

D_2 芸能活動の収入割合の変化（2019年と比較して） [p.30](#)

D_3 2020年以降の芸能活動について [p.31](#)

D_4 仕事や環境に対する考え方 [p.32](#)

D_5 10年後も今の仕事を続けていきたいか [p.33](#)

D_6 技術・技能を向上させるための必要条件 [p.36](#)

D_7 安心して活動に取り組むために必要なこと [p.38](#)

D_8 会員組織に期待する役割 [p.39](#)

D_9 ケガや病気、老後への備え [p.41](#)

D_10 労災保険特別加入制度について（認知度、加入状況など） [p.42](#)

【生活に係る基礎情報】

E_1 年代、性別 [p.45](#)

E_2 最終学歴 [p.47](#)

E_3 家族、子どもの有無 [p.48](#)

■ 調査票 [p.50](#)

第11回実態調査概要 スタッフ部門

区分	スタッフ部門	
調査地域	全国	
調査方法	インターネットアンケート （日本芸能実演家団体協議会の正会員団体等の専門団体に所属している人々に対してメール配信し、WEB画面で回答をいただいた。）	
標本抽出	団体名簿による割り当て法	
対象配布数 回収数 回収率	日本芸能実演家団体協議会正会員団体、およびその傘下の団体等に所属するスタッフ	
		合計
	配布数	533
	回収数	145
	回収率	27.2%
期間	令和7（2025）年3月1日（土）～4月1日（火）	
調査実施機関	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	
調査協力	株式会社インテージリサーチ	

＜参考＞ 第10回調査概要

区分	スタッフ部門	
調査地域	全国	
調査方法	郵送法	
標本抽出	団体名簿による割り当て法	
対象配布数 回収数 回収率	日本芸能実演家団体協議会正会員団体およびその傘下の団体等に所属するスタッフ 映像関連職能団体7団体に所属するスタッフ	
		合計
	配布数	1,596
	回収数	366
	回収率	23.0%
期間	令和元（2019）年8月10日（土）～9月2日（月）	
調査実施機関	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	
調査協力	株式会社インテージリサーチ	

<参考> 調査結果の見方

- ① 報告書中の問番号および質問は、調査票の問番号および質問文をそのまま示している。また、本文やグラフ・数表上の選択肢の表記は、語句を簡略化している場合がある（詳細は、別添調査票参照）。
- ② 複数回答（回答はいくつでも）はMA：Multiple Answer、3つまで回答は3LA：Limited Answer、自由回答はFA：Free Answerと表記している。
なお、単数回答（回答は1つ、SA：Single Answer）は省略している。
- ③ 調査結果の数値は回答率（％）で示している。
％の母数は、その質問の回答数または属性別のTOTAL数で、「n＝」で表している。
- ④ 割合は小数点第2位で四捨五入し、小数点第1位まで示している。よって、「○は1つだけ」などの質問であっても、端数が影響し、回答率の合計値が100.0%にならない場合がある。
- ⑤ 複数回答の設問では、回答率（％）は回答数「n＝」に占める割合となっている。
したがって、回答割合を全て合計しても100.0%にならない場合がある。
- ⑥ 「ベース：～」はその設問の母数を示し、主に前問の結果から回答者が絞られる設問等に表示している。
- ⑦ 属性の回答者数では、傾向を分析する上で十分とは言えない30サンプル未満の結果も含まれるが、参考値として■のグレーの網掛けとして掲載している。

結果速報

スタッフ

QA_1_1 現在行っている活動（MA）／ QA_1_2 主たる活動

- 現在の活動は、「大道具、照明、音響などの操作をする」60.7%、「美術、照明、音響などのプランをつくる」47.6%、「劇場・ホールの管理をする」33.8%が多い。
また、主たる活動は、「大道具、照明、音響などの操作をする」が最も多く、20.0%。次いで、「劇場・ホールの管理をする」18.6%、「美術、照明、音響などのプランをつくる」17.2%が続く。

	QA_1_1 現在行っている活動 （MA） %	QA_1_2 主たる活動と 考えているもの %
n=	145	145
劇やドラマを演じる	4.8	2.1
声で演じる・表現する	1.4	0.0
唸す・読む・語るなどの芸を演じる	0.0	0.0
楽器を演奏する	6.2	1.4
歌・唄・謡をうたう・語る	2.8	0.0
踊る・舞う	2.8	0.7
人形をあやつる	4.1	1.4
モデルとして表現する	0.0	0.0
司会・レポートなどを行う	0.0	0.0
教える、指導をする	14.5	3.4
アクション指導・構成をする	0.7	0.0
脚本、台本を書く	4.1	0.0
作詞、作曲・編曲をする	3.4	0.0
振付け、演出、指揮などをする	6.9	0.0
撮影・録音・録画を行う	24.8	9.0
録音・録画されたものを編集する	25.5	4.8
舞台監督をする	21.4	9.0
美術、照明、音響などのプランをつくる	47.6	17.2
大道具、照明、音響などの操作をする	60.7	20.0
小道具、衣装などをつくる	7.6	0.0
企画をたてる、制作をする	12.4	0.0
主宰、団体運営・経営をする	11.7	6.2
劇場・ホールの管理をする	33.8	18.6
その他	7.6	6.2

QA_1_1 あなたが現在なさっている活動として、あてはまるものすべてを選んでください。※回答必須ご自身と仕事との関わりについて伺います。
QA_1_2 また、そのうち、あなたが主たる活動だと考えているものを一つだけ選んでください。※回答必須ご自身と仕事との関わりについて伺います。

QA_2_1携わっている分野（MA）／QA_2_2主たる分野／QA_3活動分野・報酬の年数

- 『携わっている分野』および『主たる分野』は次の結果であった。
- 活動分野に関わり始めてからの年数は平均30.4年、報酬を得ようになってからの年数は平均28.2年。活動を始めてから、報酬が得られるようになるまでの平均年数は、2.2年。

	QA_2_1 携わっている分野 (MA) %	QA_2_2 主たる分野と 考えているもの%
n=	145	145
≪伝統演劇≫		
能楽	4.8	0.0
人形浄瑠璃・文楽	2.1	0.0
組踊	0.7	0.0
歌舞伎	4.8	0.7
≪現代演劇≫		
現代演劇・新劇	27.6	9.0
商業演劇	19.3	5.5
小劇場系演劇	23.4	4.1
児童・青少年演劇	13.8	4.8
人形劇	9.7	4.1
影絵	0.0	0.0
ミュージカル	31.0	4.1
≪伝統音楽・和楽器≫		
雅楽	3.4	0.0
琵琶	2.8	0.0
義太夫	0.7	0.0
常磐津	1.4	0.0
清元	1.4	0.0
新内	0.0	0.0
古曲	0.7	0.0
長唄	2.8	0.0
囃子	1.4	0.0
小唄	0.7	0.0
三曲	2.1	0.0
民謡	8.3	0.0
琉球古典音楽	0.7	0.0
その他和楽器を使用した音楽	4.1	0.7

	QA_2_1 携わっている分野 (MA) %	QA_2_2 主たる分野と 考えているもの%
n=	145	145
≪洋楽・現代音楽≫		
オーケストラ・吹奏楽	33.8	13.8
室内楽	14.5	2.1
オペラ・オペレッタ	15.9	1.4
合唱	17.2	0.7
ソロ（演奏）	12.4	0.7
ソロ（歌唱）	11.0	0.0
ジャズ	13.1	0.7
J-POP・フォーク	29.0	9.7
ロック・ソウル・R&B	21.4	2.8
ダンス・ヒップホップミュージック	20.7	1.4
民族音楽	5.5	0.0
演歌・流行歌	15.2	1.4
その他の洋楽・現代音楽	2.1	1.4
≪邦舞≫		
日本舞踊	17.9	0.0
琉球舞踊	1.4	0.0
≪洋舞など≫		
バレエ	31.7	8.3
現代舞踊・コンテンポラリーダンス	22.1	1.4
ジャズダンス	18.6	0.0
児童舞踊	4.1	0.0
舞踏	4.1	0.0
フラメンコ	7.6	0.7
ベリーダンス	4.8	0.0
バントマイム	2.8	0.0
パフォーマンス	8.3	0.7
その他の舞踊	1.4	0.0

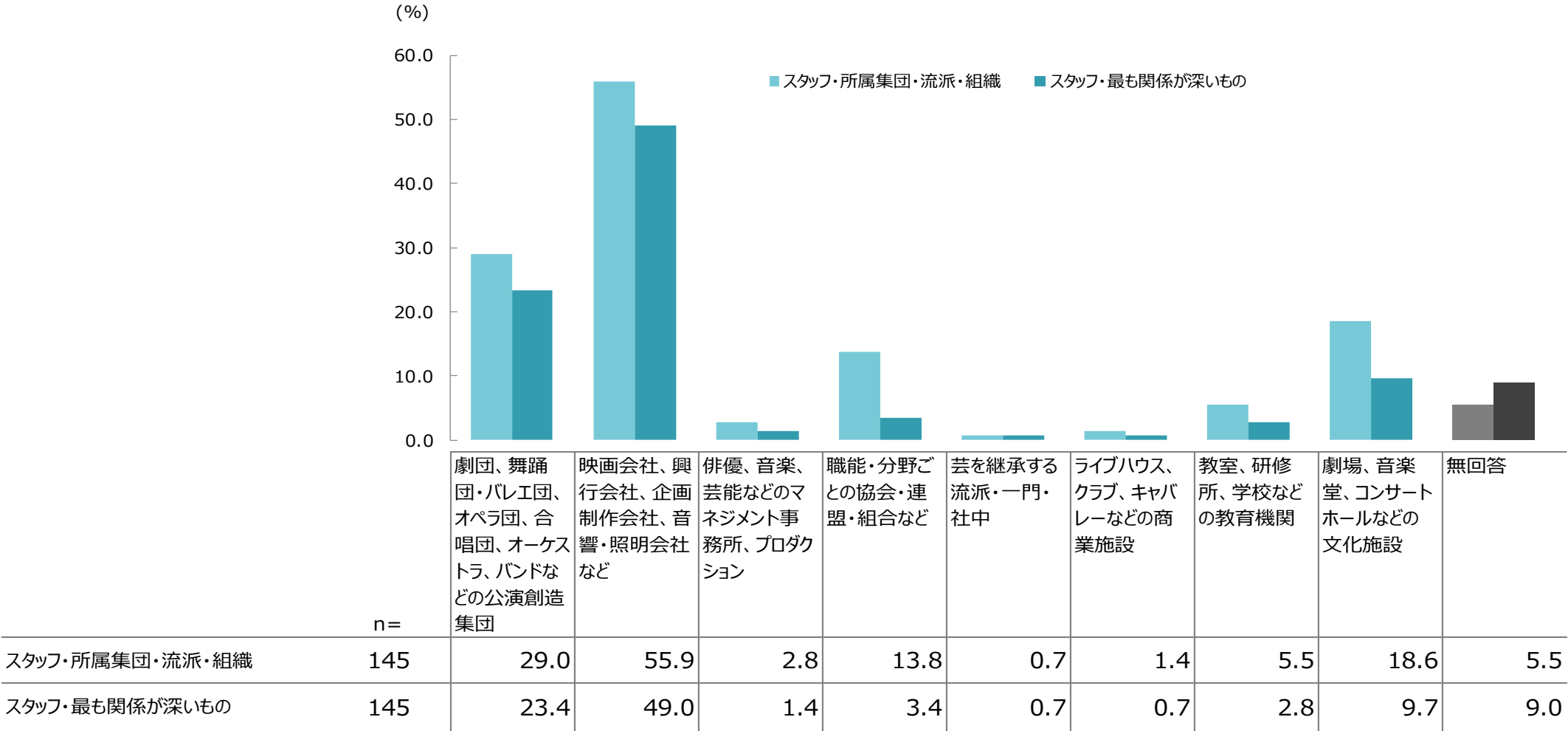
	QA_2_1 携わっている分野 (MA) %	QA_2_2 主たる分野と 考えているもの%
n=	145	145
≪演芸≫		
落語	15.9	0.0
講談	4.1	0.0
浪曲	0.7	0.0
漫才	6.2	0.0
漫談	2.1	0.0
奇術	2.1	0.0
曲芸・太神楽	2.1	0.0
クラウン	4.1	0.7
物真似	0.7	0.0
司会	1.4	0.0
≪メディアなど≫		
映画	4.8	0.0
放送（テレビ、ラジオ等）・スタジオ	11.7	5.5
録音・スタジオ録画	13.8	8.3
ビデオ、DVD	2.1	0.0
外国映画、アニメ	0.7	0.0
ミュージックビデオ	4.1	0.0
インターネットTV・配信	9.0	0.0
CM	4.8	0.0
ナレーション	2.1	0.0
ショー・イベント・プロモーション	6.2	4.1
モデル	0.0	0.0
その他	3.4	1.4

QA_3活動分野・報酬の年数

n=145	平均（年）
活動分野に関わり始めてからの年数	30.4
報酬を得ようになってからの年数	28.2

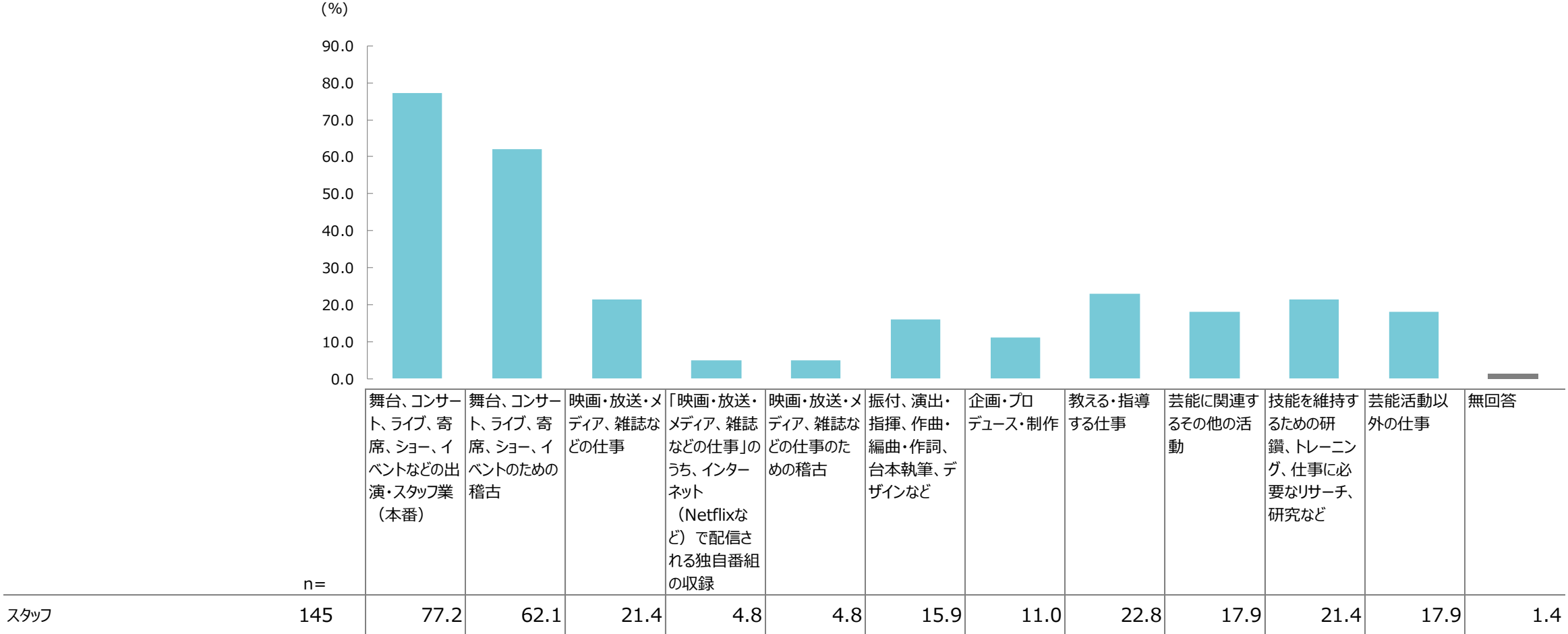
QB_1_1 所属している集団・流派・組織（MA） / QB_1_2 最も関係の深いもの

- 所属している集団・流派・組織は、「映画会社や興行会社、企画制作会社など」が最も多く55.9%を占める。次いで、「劇団や舞踊団などの公演創造集団」29.0%、「劇場やコンサートホールなどの文化施設」18.6%と続く。
- 最も関係の深い所属集団・流派・組織は、「映画会社や興行会社、企画制作会社など」が49.0%と約半数を占め、次いで「劇団、舞踊団・バレエ団、オペラ団、合唱団、オーケストラ、バンドなどの公演創造集団」23.4%、「劇場、音楽堂、コンサートホールなどの文化施設」9.7%と続く。



QB_2 昨年 1 年間に行なった仕事（MA）

- 昨年 1 年間に行なった仕事としては、「舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントなどの出演・スタッフ業（本番）」が77.2%と最も多く、次いで「舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントのための稽古」62.1%、「教える・指導する仕事」22.8%、「映画・放送・メディア、雑誌などの仕事」「技能を維持するための研鑽、トレーニング、仕事に必要なリサーチ、研究など」がともに21.4%と続く。
- なお、「映画・放送・メディア、雑誌などの仕事」のうち、インターネット（Netflixなど）で配信される独自番組の収録」は4.8%と低く、従来型のメディアが中心となっている。
- 一方で、「芸能活動以外の仕事」を行った人は17.9%と一定数存在する。



QB_2 あなたが昨年1年間（2024年1月から12月末まで）に行なった芸能に関わる仕事と、それ以外の仕事について、あてはまるものすべてを選んでください。また、昨年1年間にそれぞれのお仕事にあなたが費やしたおおよその日数をお答えください。※1日の活動時間が数十分～数時間程度の仕事でも「1日」としてカウントしてください。

QB_2 昨年 1 年間に行なった仕事（日数）

- 昨年 1 年間に行なった仕事の平均日数は、「芸能活動以外の仕事（事業経営、パート・アルバイトなど）」平均138.3日、「映画・放送・メディア、雑誌などの仕事（テレビ・ラジオ出演・演奏、アテレコ、ビデオ出演、レコーディング、CM撮影、雑誌などのインタビューなど）」平均127.6日などが多い。

※1日の活動時間が数十分～数時間程度の仕事も「1日」としてカウントするため、一人当たりの活動日数が365日を超える場合もある。

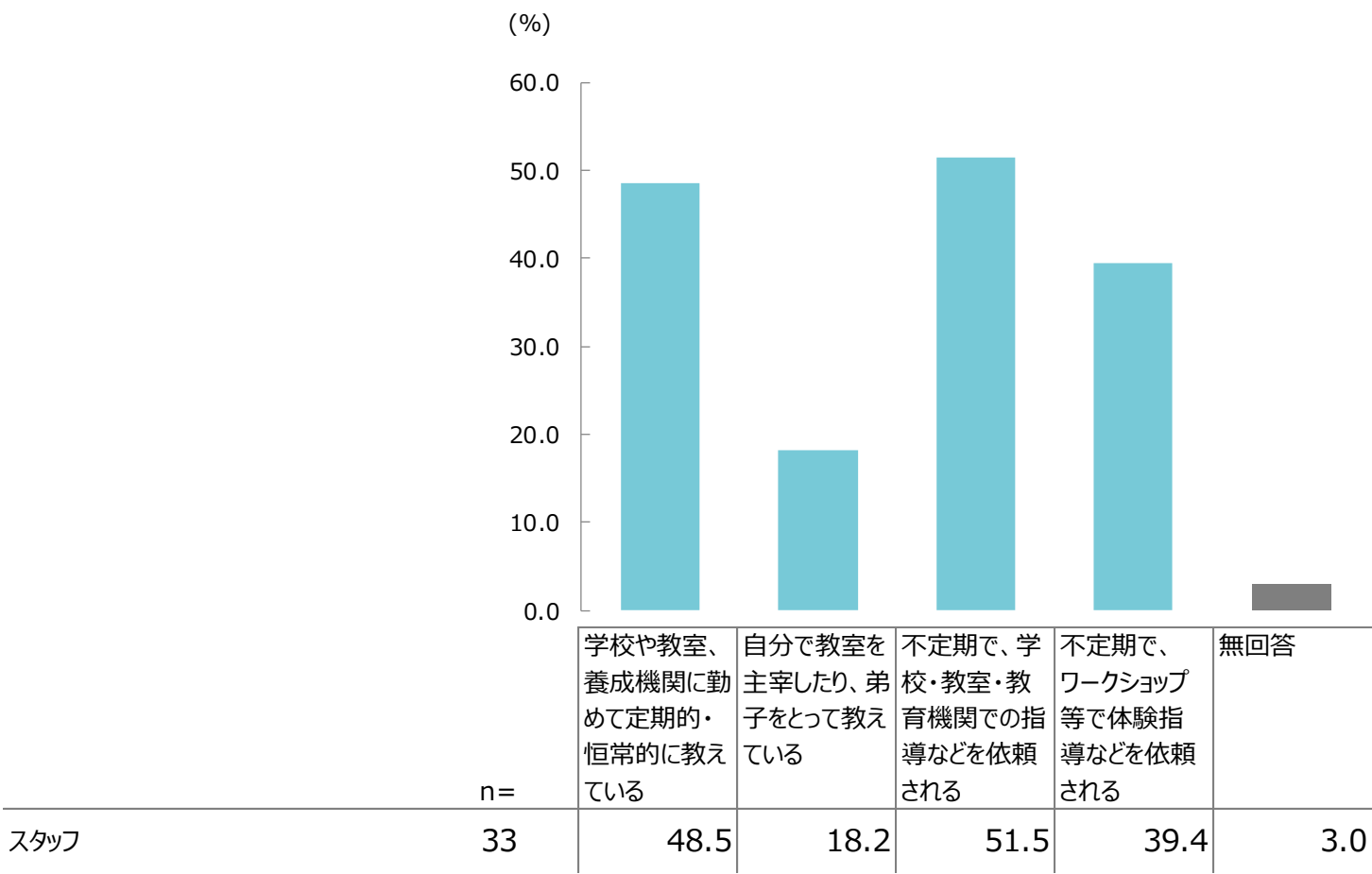
■ は100日以上を示す。

	n=145	平均日数
舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントなどの出演・スタッフ業（本番）		114.6
舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントのための稽古（リハーサル、移動日を含む）		84.4
映画・放送・メディア、雑誌などの仕事（テレビ・ラジオ出演・演奏、アテレコ、ビデオ出演、レコーディング、CM撮影、雑誌などのインタビューなど）		137.6
「映画・放送・メディア、雑誌などの仕事」のうち、インターネット(Netflixなど)で配信される独自番組の収録		28.0
映画・放送・メディア、雑誌などの仕事のための稽古（リハーサル、移動日を含む）		33.0
振付、演出・指揮、作曲・編曲・作詞、台本執筆、デザインなど（自宅などで個人での作業を含む）		74.0
企画・プロデュース・制作		45.6
教える・指導する仕事		51.7
芸能に関連するその他の活動（関連する講演、執筆、スタッフや組織などでの活動）		102.4
技能を維持するための研鑽、トレーニング、仕事に必要なリサーチ、研究など		60.1
芸能活動以外の仕事（事業経営、パート・アルバイトなど）		138.3

QB_3a 教える（指導・教授）仕事の状況（MA）

【ベース：QB_2で、指導者・教授を選択した人】

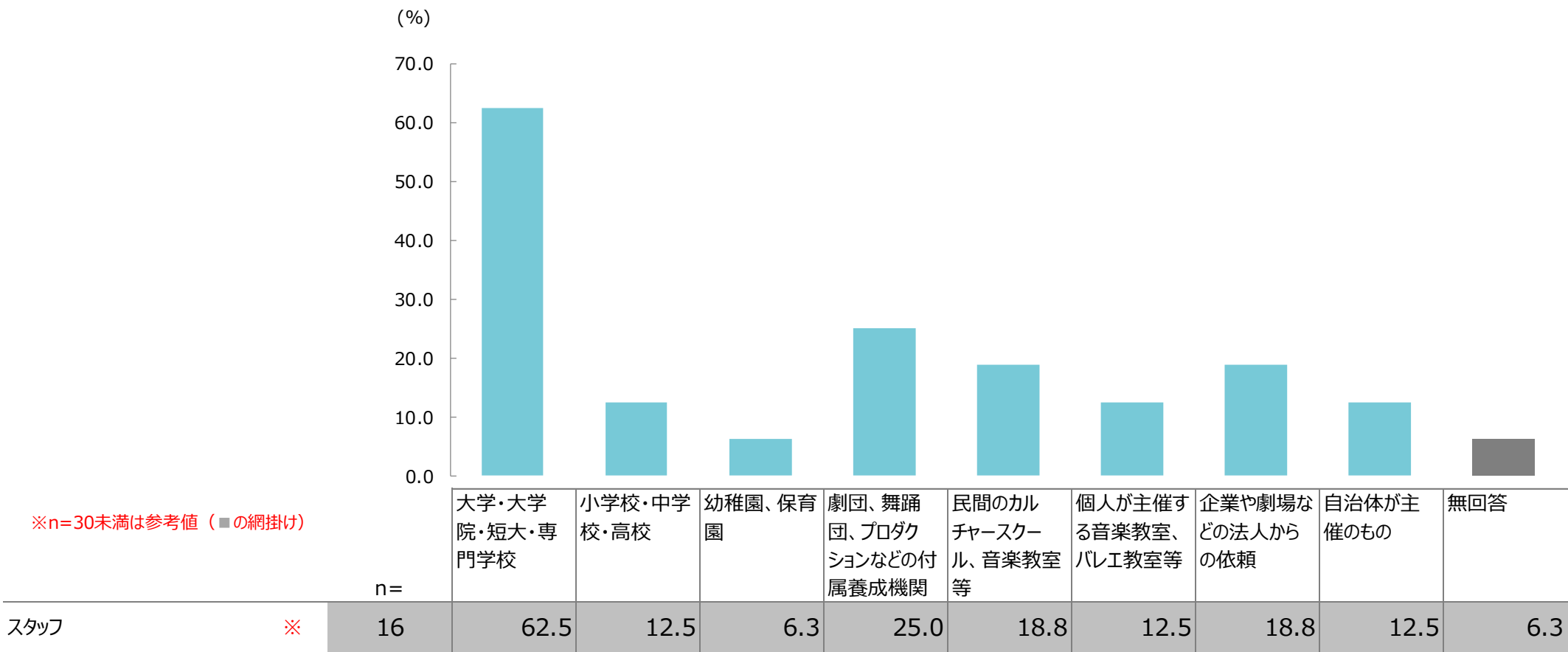
- 教える（指導・教授）仕事の状況では、「不定期で、学校・教室・教育機関での指導などを依頼される」51.5%が最も多い形態で、半数以上が経験している。次いで、「学校や教室、養成機関に勤めて定期的・恒常的に教えている」48.5%、「不定期で、ワークショップ等で体験指導などを依頼される」39.4%と続き、組織に属して、または組織から依頼されての指導が主流であることがうかがえる。



QB_3b 現在勤めて教えている学校、教室の種類（MA）

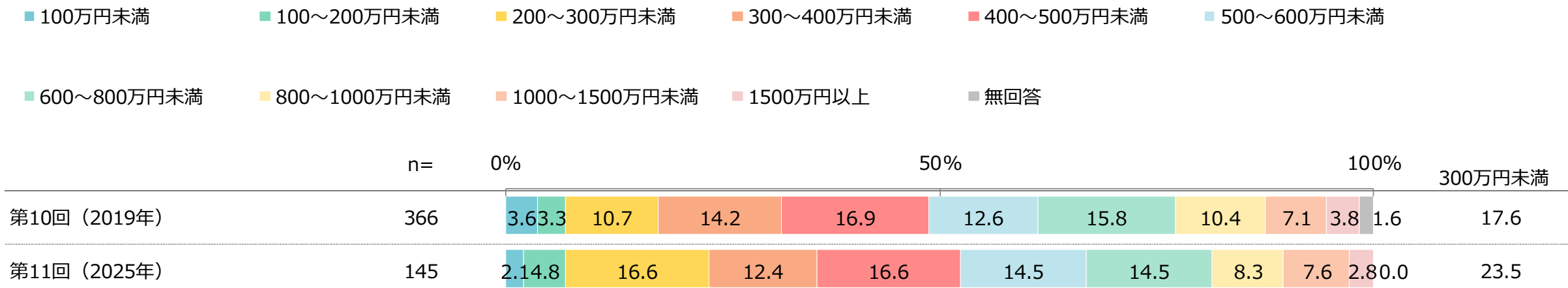
【ベース：QB_3aで、勤めて教えていると回答した人】

- 現在勤めて教えている学校、教室の種類では、「大学・大学院・短大・専門学校」が最も多く、62.5%。次いで、「劇団、舞踊団、プロダクションなどの付属養成機関」25.0%、「民間のカルチャースクール、音楽教室等」「企業や劇場などの法人からの依頼」ともに18.8%が続く。 ※回答が16サンプル数のため参考値。



QB_4 昨年 1 年間の個人収入

- 昨年 1 年間の個人年収は、第11回は「200～300万円未満」と「400～500万円未満」が同率16.6%でボリュームゾーンとなっている。中央値は「400～500万円」。
- 300万円未満の低所得者層の割合は23.5%であり、第10回と比べて5.9ポイント増加している。



QB_5 昨年 1 年間の活動別収入の割合／QB_6 得ている報酬の形式別割合

- 昨年 1 年間の活動別収入の割合では、「部隊、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントなどの出演・スタッフ業」60.5%、「映画・放送・メディアの出演・スタッフ業」9.3%など。
- 得ている報酬の形式別割合は、「雇用による、月給、年俸などのあらかじめ決められた賃金」58.5%、「業務委託による、仕事に応じて支払われる報酬（月間・年間であらかじめ金額が決まられてはいない報酬）」19.2%、「会社経営による報酬」12.2%など。

昨年 1 年間の活動別収入の割合

	n=145	平均%
舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントなどの出演・スタッフ業		60.5
映画・放送・メディアの出演・スタッフ業		9.3
振付、演出・指揮、作曲・編曲・作詞、台本執筆、デザイン、企画・プロデュース・制作		5.9
教える・指導する仕事		5.1
原稿料、著作権料、著作隣接権料		0.1
芸能に関連するその他の仕事		7.4
不動産、その他の事業経営		0.8
年金		1.6
上記以外の収入（芸能に関連しない仕事を含む）		7.3

得ている報酬の形式別割合

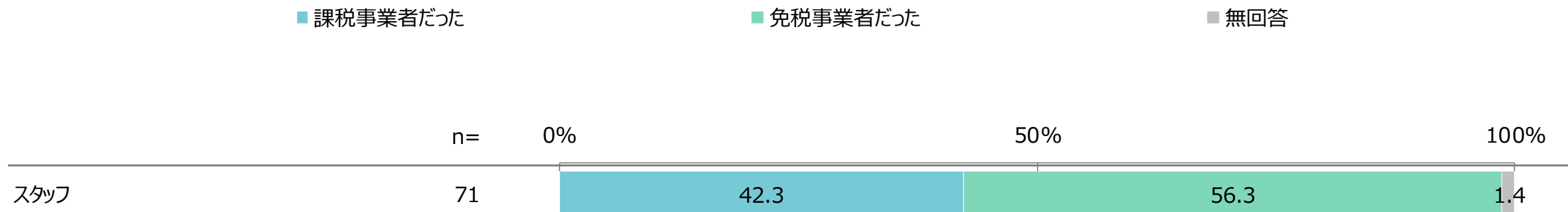
	n=145	平均%
雇用による、月給、年俸などのあらかじめ決められた賃金		58.5
業務委託による、年俸などのあらかじめ決められた報酬		3.4
業務委託による、仕事に応じて支払われる報酬（月間・年間であらかじめ金額が決まられてはいない報酬）		19.2
事業運営による収入（自らが主催）		2.8
会社経営による報酬		12.2
その他（著作権料・著作隣接権料、不動産、年金など）		1.9

QB_5 あなた個人の昨年1年間（2024年1月から12月末まで）の年収を、仕事の種類別に分けると、どのような割合になりますか。おおよその割合を入力してください。
QB_6 あなたが得ている報酬を、形式別に分けると、どのような割合になりますか（芸能以外の収入も含む）。おおよその数字を欄内に入力してください。

QC_1a インボイス制度の導入以前は課税事業者だったか

【ベース：QB_5で、「雇用による、月給、年俸などのあらかじめ決められた賃金」以外の報酬を得ている人】

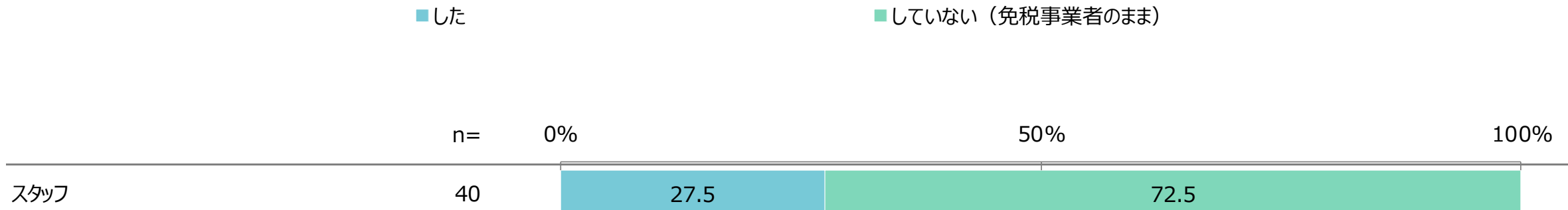
- インボイス制度導入以前、「免税事業者だった」割合が56.3%と半数以上を占めている。「課税事業者だった」割合は42.3%。



QC_1a インボイス制度の導入以前は、課税事業者でしたか。※「インボイス制度」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。
「雇用による、月給、年俸などのあらかじめ決められた賃金」以外の報酬を得ているとお答えの方にお伺いします。

【ベース：QC 1aで、インボイス制度導入以前は免税事業者だった人】

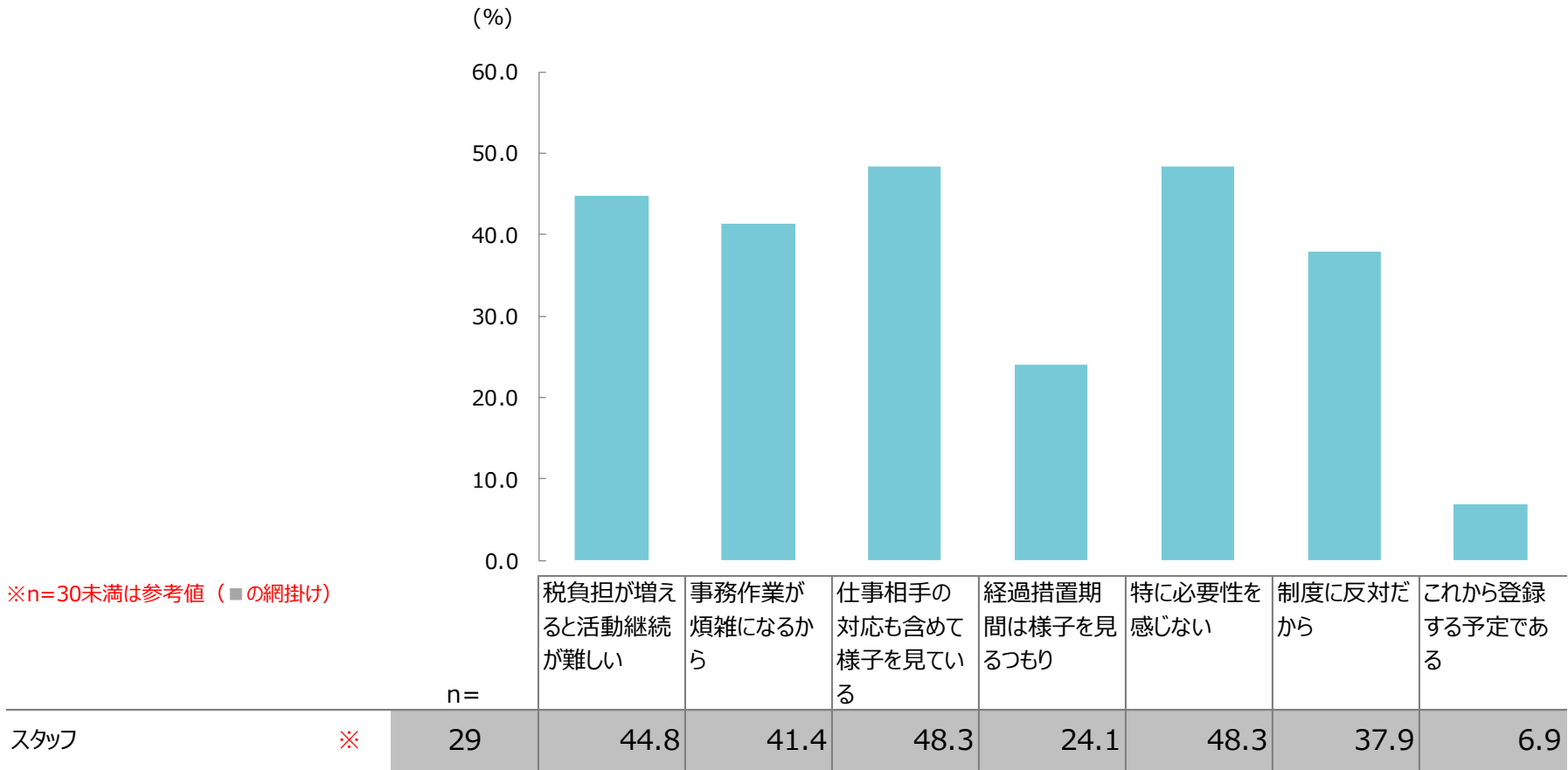
- インボイス制度導入を受けて、72.5%の多数が適格請求書発行事業者登録をしていない状態（免税事業者のまま）であった。登録をした割合は27.5%にとどまっている。



QC_1C 適格請求書発行事業者の登録をしていない理由（MA）

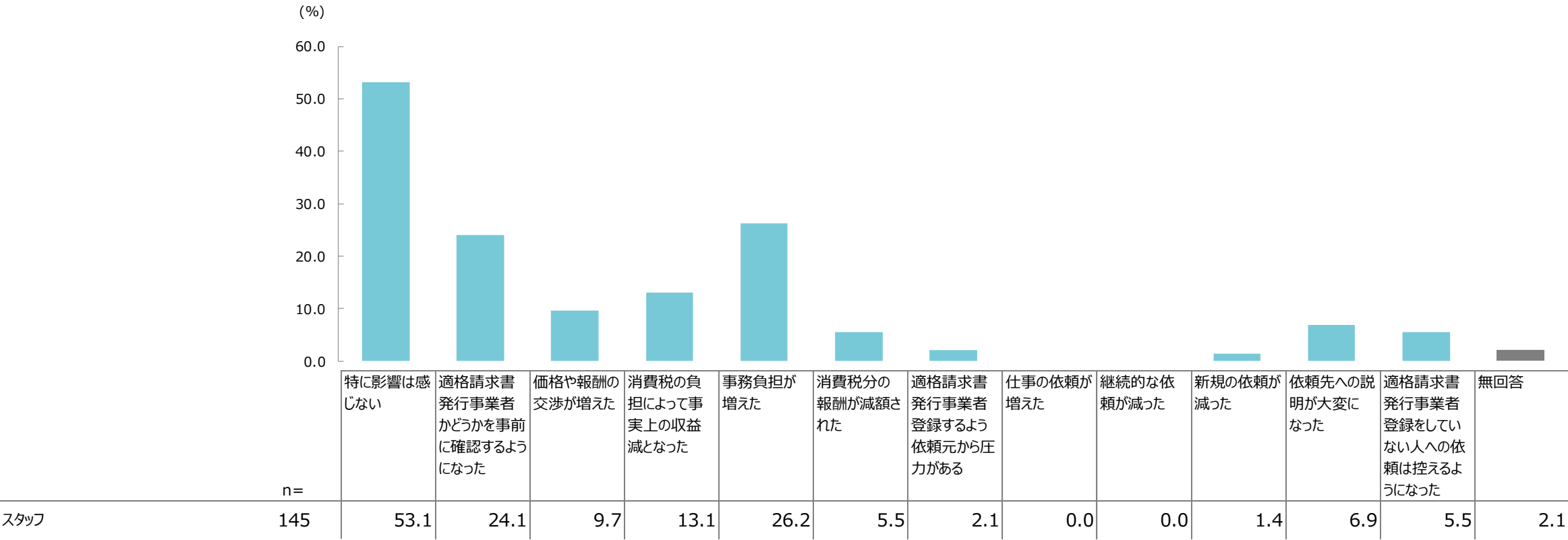
【ベース：QC_1bで、適格請求書発行事業者登録をしていない人】

- 適格請求書発行事業者の登録をしていない理由は、「仕事相手の対応も含めて様子を見ている」「特に必要性を感じない」が最も多く、ともに48.3%。次いで、「税負担が増えると活動継続が難しい」44.8%が続く。ただし、回答が29サンプル数のため参考値。



QC_2 インボイス制度導入による芸能活動への影響の有無（MA）

- インボイス制度導入による芸能活動への影響について、半数以上（53.1%）が「特に影響を感じていない」と回答。
一方で、「事務負担が増えた」26.2%や「適格請求書発行事業者かどうかを事前に確認するようになった」24.1%など、約 4 分の 1 が負担の増加を感じている。
- 経済的な影響（収益減、報酬交渉増加、報酬減額）を感じている回答者が一定数存在し、制度導入が芸能活動の収益面にも影響を与えていることが示唆されている。



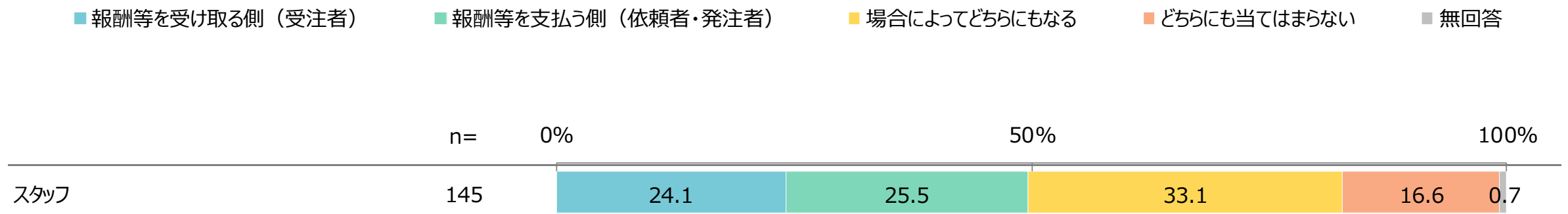
QC_3 「フリーランス・事業者間取引適正化等法」の認知

- フリーランス・事業者間取引適正化等法について、「法律の内容も理解している」43.4%と「名前は知っているが内容は知らない」39.3%は同程度となっており、合わせた認知率（内容理解＋名称理解）は82.7%であった。実演家の63.5%より高い認知率となっている。



QC_4 あなたは個人事業者として受注する側（報酬等を受け取る側）か個人事業者へ発注する側（報酬等を支払う側）か

- 個人事業者として受注または個人事業者へ発注する側かどうかについては、「場合によってどちらにもなる」が33.1%と最も多く、「報酬等を受け取る側（受注者）」24.1%、「報酬等を支払う側（依頼者・発注者）」25.5%は同程度であった。

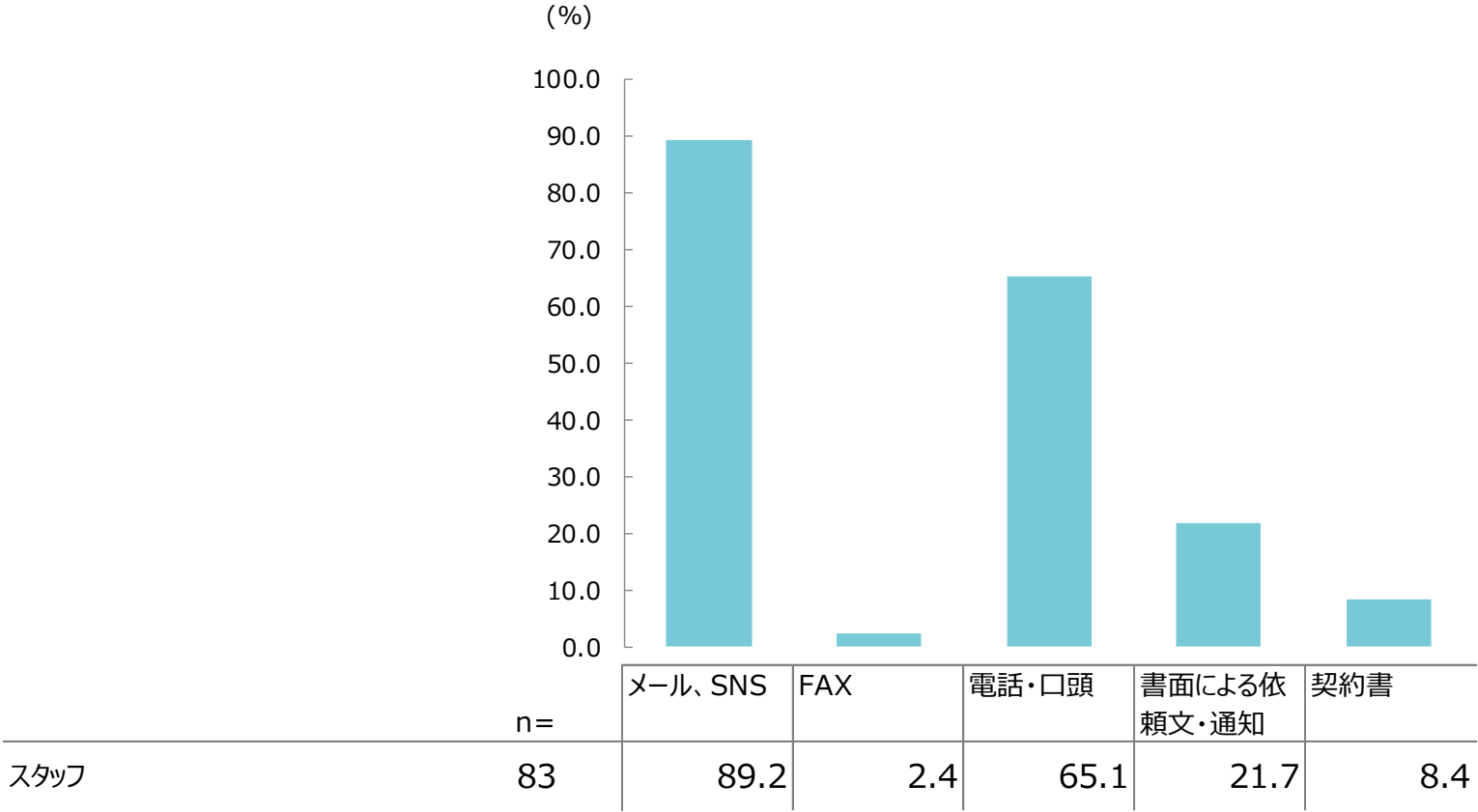


QC_4 あなたは、個人事業者として受注する側（報酬等を受け取る側）、個人事業者へ発注する側（報酬等を支払う側）、どちらの立場になりますか。
以下の質問では、個人で仕事をしている人、団体や事務所に所属していても雇用関係ではない働き方の人たちを「個人事業者」という表記にしています。

QC_5 依頼される際に仕事内容や条件を知らされた方法（MA）

【ベース：QC_4で、「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた人】

- 仕事内容や条件を知られる方法として、メールやSNSが最も一般的で、次いで電話・口頭での伝達が多く使用されている。書面による依頼文や通知書、日程表などの使用も一定数みられるが、FAXや契約書の使用は少ない。
- 依頼時に仕事内容や条件を知らされた方法は、「メール、SNS」は89.2%と最も高い割合で使用されており、デジタルコミュニケーションが主流となっている。次いで「電話・口頭」65.1%、「書面による依頼文・通知書、日程表など」21.7%と続く。「契約書」は8.4%と低い。



QC_5 依頼される際に仕事内容や条件を知らされた方法（重複状況 上位5位まで）

【ベース：QC_4で、「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた人】

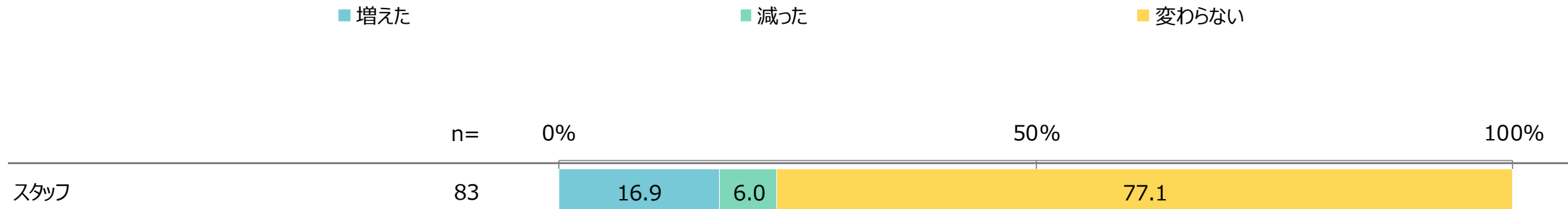
- 依頼時に仕事内容や条件を知らされた方法の重複状況を確認すると、「メール、SNS＋電話・口頭」が43.4%と最も多く、次いで「メール、SNS」25.3%と続く。「電話・口頭のみ」は6.0%と少ない。

	n数	%
TOTAL	83	—
メール、SNS,電話・口頭	36	43.4
メール、SNS	21	25.3
メール、SNS,電話・口頭,書面による依頼文・通知書、日程表など	6	7.2
メール、SNS,書面による依頼文・通知書、日程表など	5	6.0
電話・口頭	5	6.0

QC_6 仕事を依頼される際に文書による事前通知、契約が増えたか

【ベース：QC_4で、「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた人】

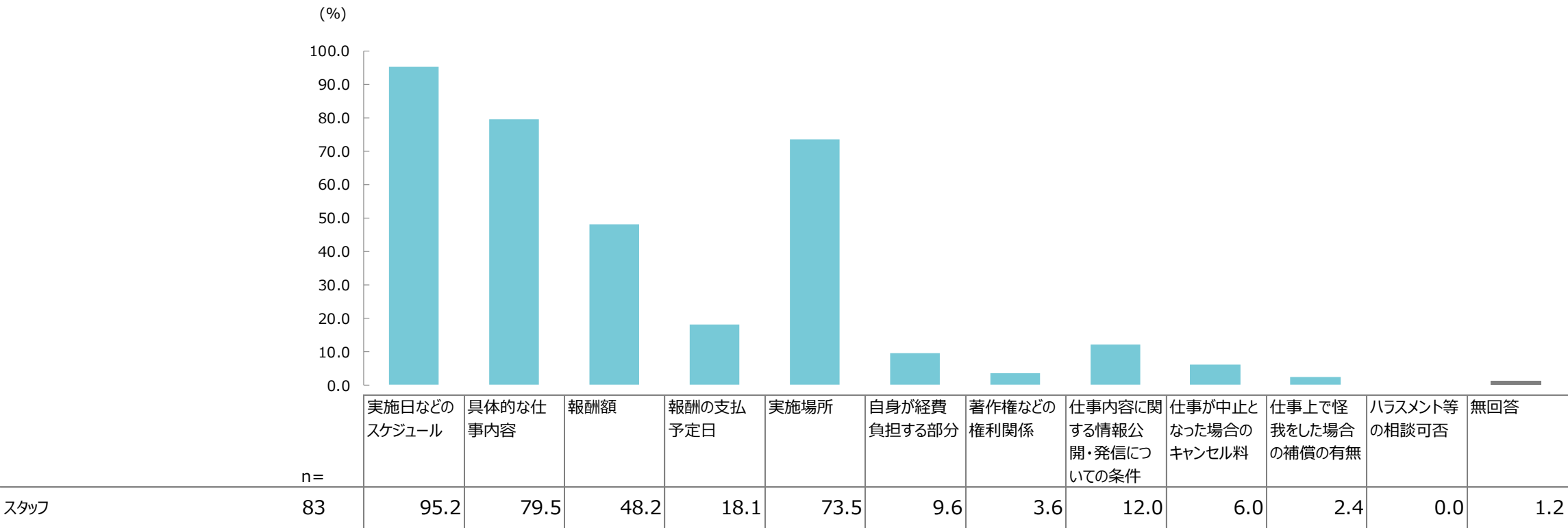
- 仕事の依頼時に文章による事前通知、契約が増えたかどうかは、大多数（77.1%）が「変わらない」と回答。
- 「増えた」16.9%、「減った」6.0%であり、約5人に1人（22.9%）は何らかの変化があったとしている。



QC_7 仕事を依頼される際に事前に知らされた内容（MA）

【ベース：QC_4で、「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた人】

- 仕事を依頼される際に事前に知らされた内容では、「実施日などのスケジュール」が95.2%と最も多く、「具体的な仕事内容」79.5%、「実施場所」73.5%が上位を占めている。一方で、「報酬額」は48.2%と半数以下にとどまっており、事前に知らされないケースもまだ多いことがわかる。



QC_8a 依頼される側の立場で、フリーランス法の施行後に変化したこと（MA）

【ベース：QC_4で、「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた人】

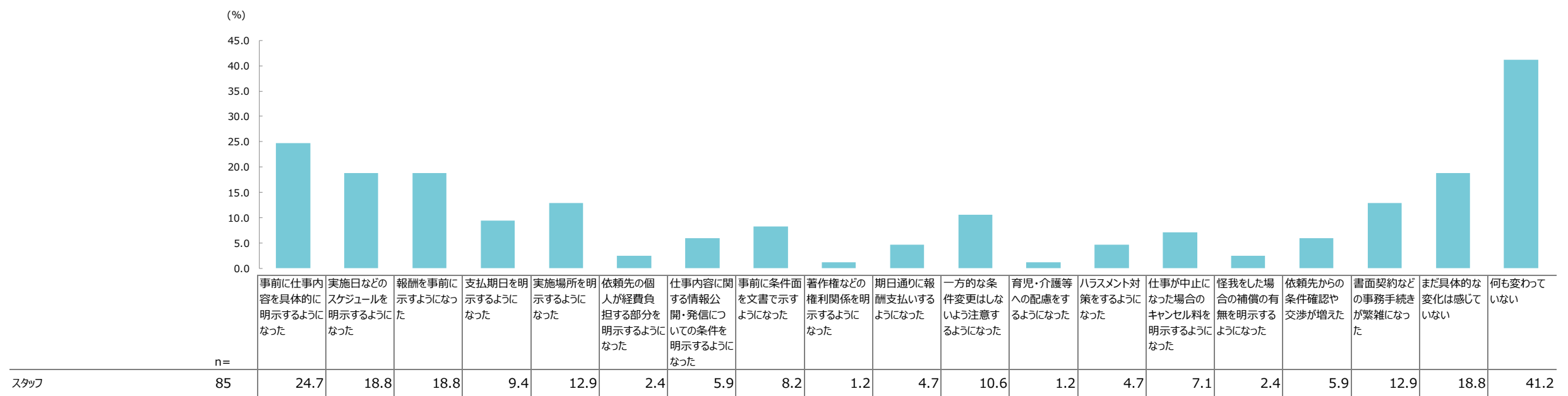
- 依頼される立場でフリーランス法の施行後の変化として、過半数（56.6%）が「何も変わっていない」と回答しており、「まだ具体的な変化はわからない」20.5%と合わせると、77.1%と多数であり、法施行の影響がまだ顕著には現れていない可能性がある。
- 「仕事内容が具体的に明示されるようになった」と「実施日などのスケジュールが明示されるようになった」がともに8.4%で最も高い割合を示している。「報酬が事前に示されるようになった」や「実施場所が明示されるようになった」はとのみ3.6%、「ハラスメント対策がされるようになった」が2.4%あり、わずかながら改善の兆しがみられる。
- 一方で、「依頼主との交渉は難しくなった」「書面契約などの手続きが繁雑になった」がともに2.4%あり、一部でネガティブな影響もみられる。



QC_8b 依頼する側の立場で、フリーランス法の施行後に変化したこと（MA）

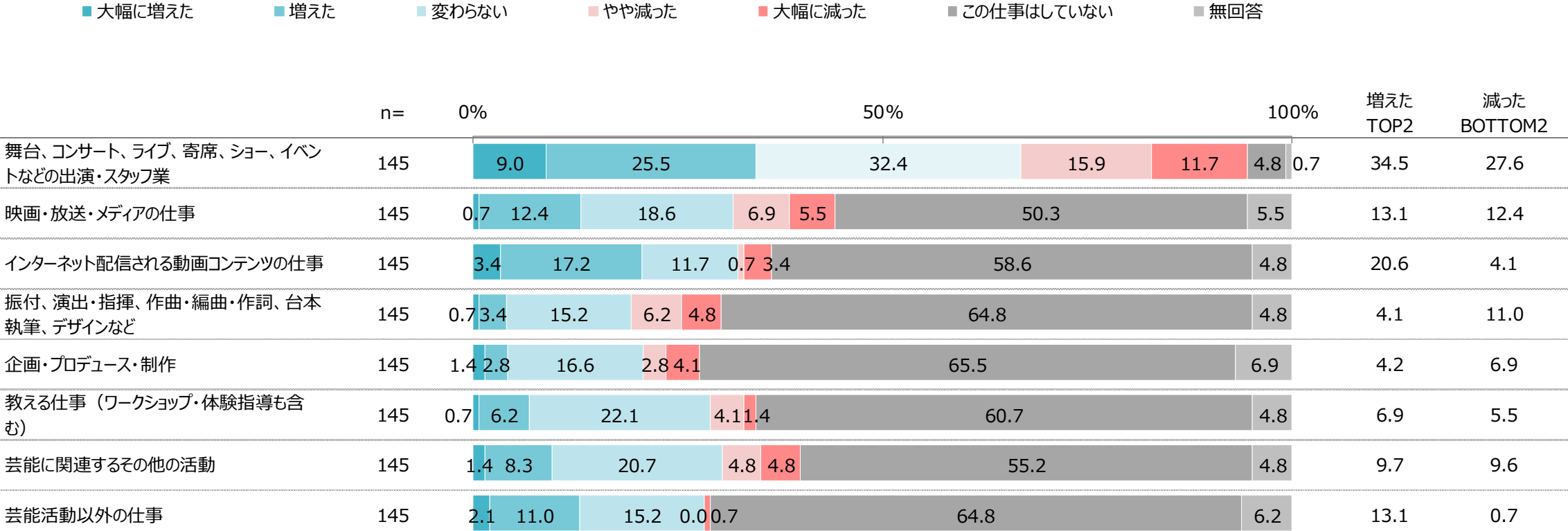
【ベース：QC_4で、「報酬等を支払う側（依頼者・発注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた人】

- 依頼する立場でフリーランス法の施行後の変化として、「何も変わっていない」41.2%と「まだ具体的な変化はわからない」18.8%を合わせると60.0%と過半数に上り、多くの回答者が変化を感じていない、またはわからない状況にある。
- 一方で、「事前に仕事内容を具体的に明示するようになった」24.7%や、「実施日などのスケジュールを明示するようになった」と「報酬を事前に示すようになった」はともに18.8%など、仕事の基本的な条件の明示が増加している。
- 「著作権などの権利関係を明示するようになった」1.2%、「育児・介護等への配慮をするようになった」1.2%、「ハラスメント対策をするようになった」4.7%など、労働環境の改善に関する変化は少ないことが示されている。



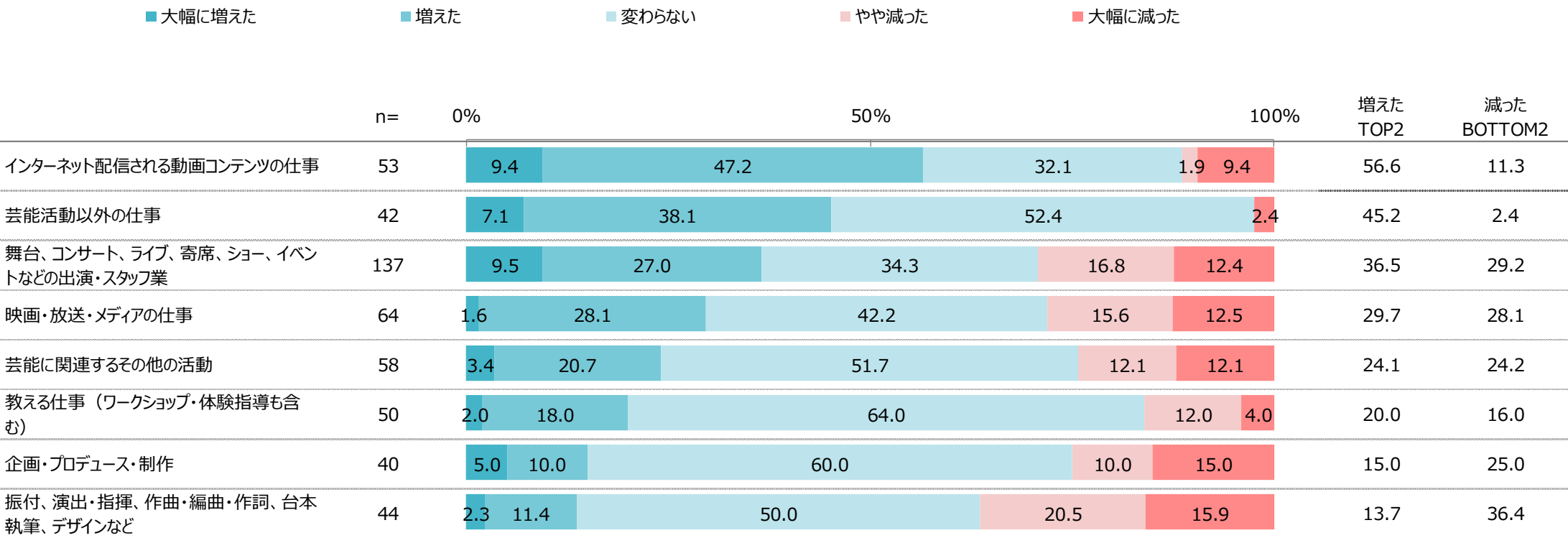
QD_1 仕事の機会について2019年（コロナ禍前）との比較

* 「この仕事はしていない」という回答も含めた全体（参考）



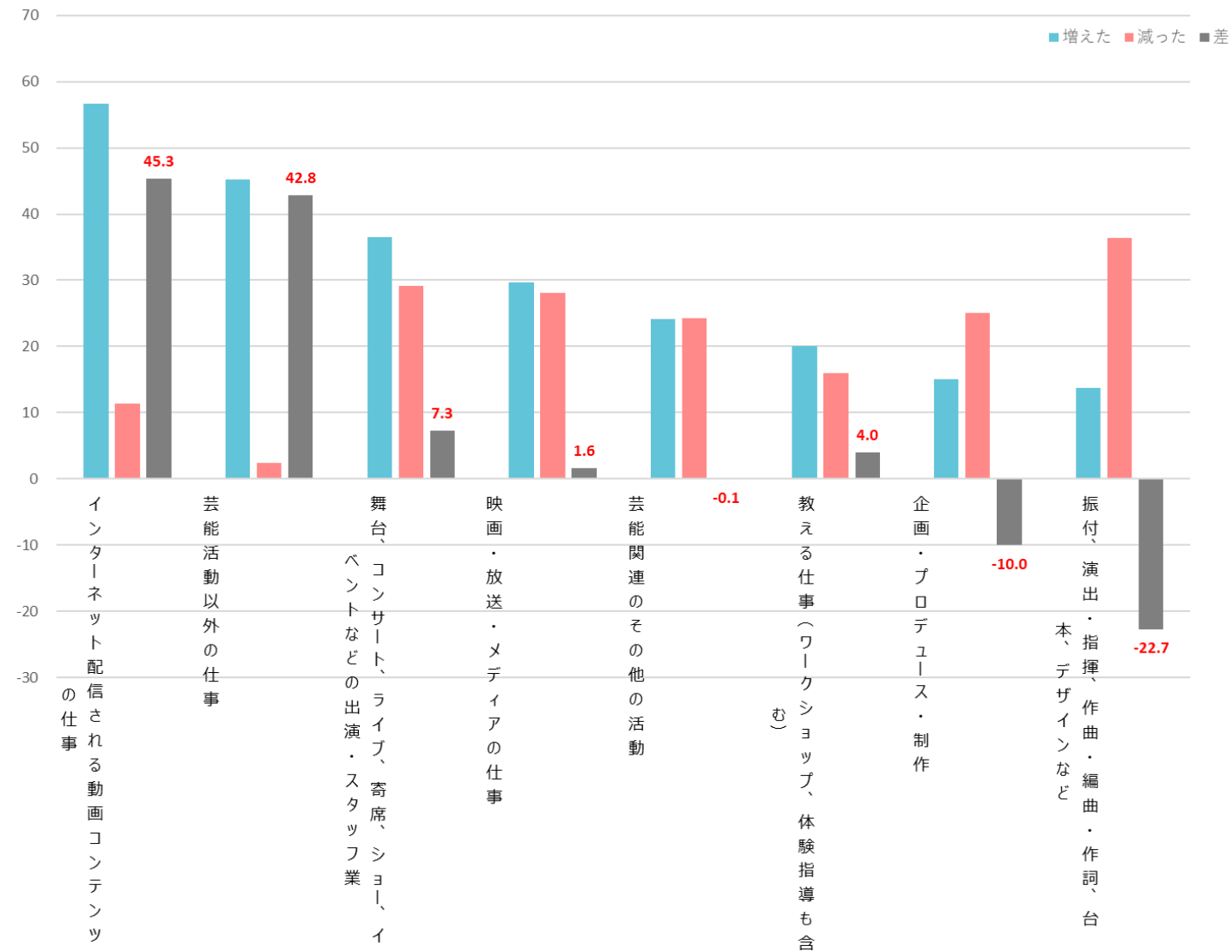
QD_1 仕事の機会について2019年（コロナ禍前）との比較

- 増加傾向（増えたTOP2：大幅に増えた＋増えたの割合が高い）にある仕事も多く、特に、『インターネット配信される動画コンテンツの仕事』で顕著となっている（増えたTOP2 56.6%）。
一方で、『芸能活動以外の仕事』も増加傾向（増えたTOP45.2%）となっている。
- 減少傾向（減ったBOTTOM2：減った＋大幅に減ったの割合が高い）にある仕事は、『振付、演出・式、作曲・編曲・作詞、台本執筆、デザインなど』（減ったBOTTM2 36.4%）であるが、「変わらない」も50.0%と半数存在する。



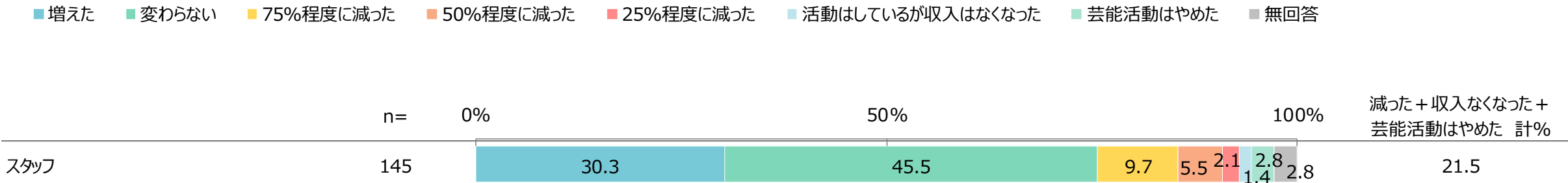
QD_1 仕事の機会について2019年（コロナ禍前）との比較

- 増えたTOP2（大幅に増えた+増えた）と減ったBOTTOM2（減った+大幅に減った）の差をみると、特に、『インターネット配信される動画コンテンツの仕事』と『芸能活動以外の仕事』では40ポイント以上のプラスとなっている。



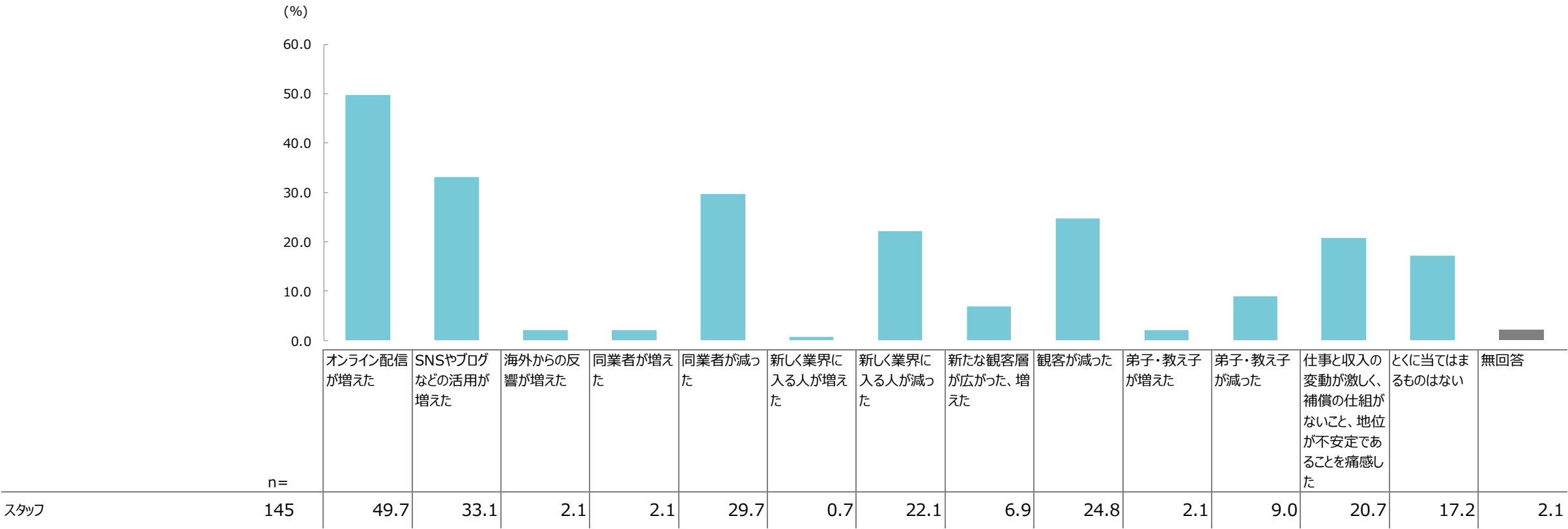
QD_2 2024年の芸能活動からの収入について2019年（コロナ禍前）との比較

- 2024年の芸能活動からの収入を2019年（コロナ禍前）と比べると、「変わらない」45.5%が最も多く、次いで「増えた」30.3%となっている。
一方、収入が減少した（25～75%程度に減った）および「活動はしているが収入はなくなった」、「芸能活動はやめた」の合計は21.5%であり、収入状況には差が生じている。



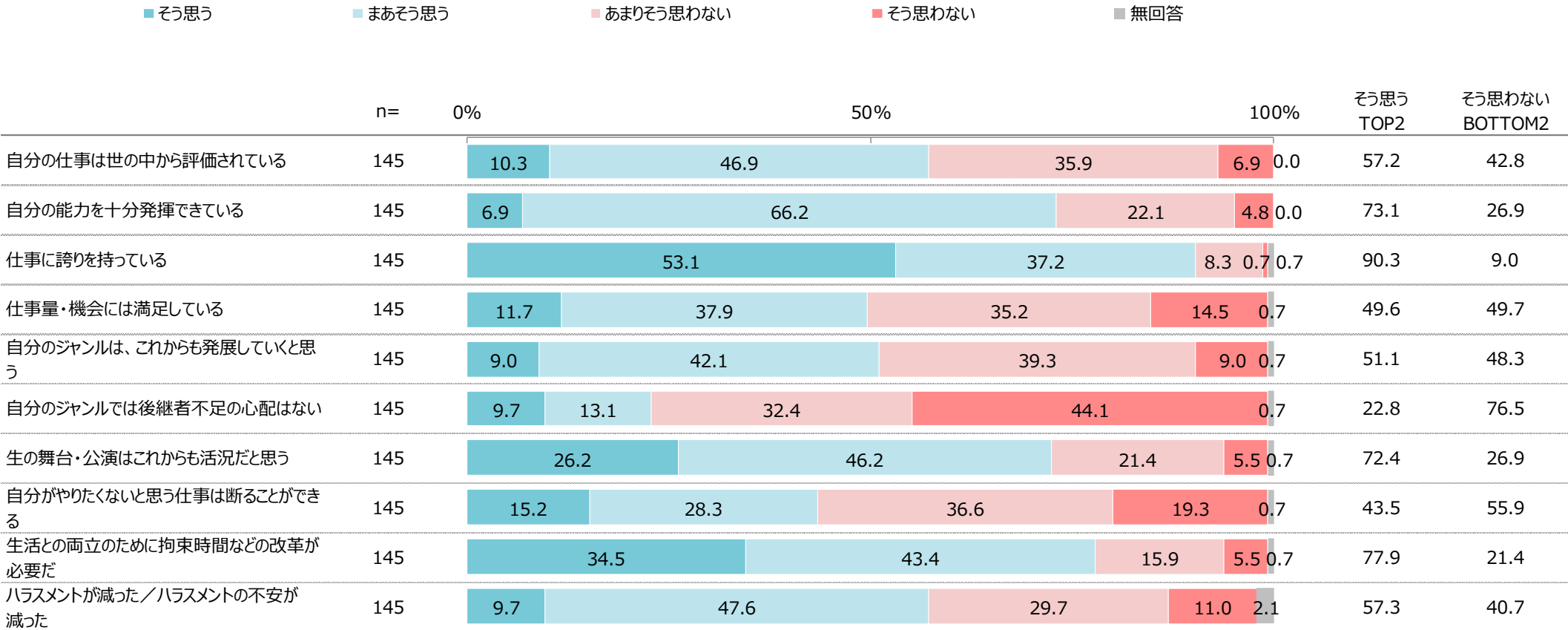
QD_3 2020年以降の芸能活動についてあてはまるもの（MA）

- 2020年以降の芸能活動についてあてはまるものとしては、「オンライン配信が増えた」が49.7%と約半数が経験している。次いで、「SNSやブログなどの活用が増えた」33.1%、「同業者が減った」29.7%が続く。
- 「新たな観客層が広がった、増えた」と感じた人は6.9%にとどまる一方、「観客が減った」と感じた人は24.8%と、約4倍の差がある。



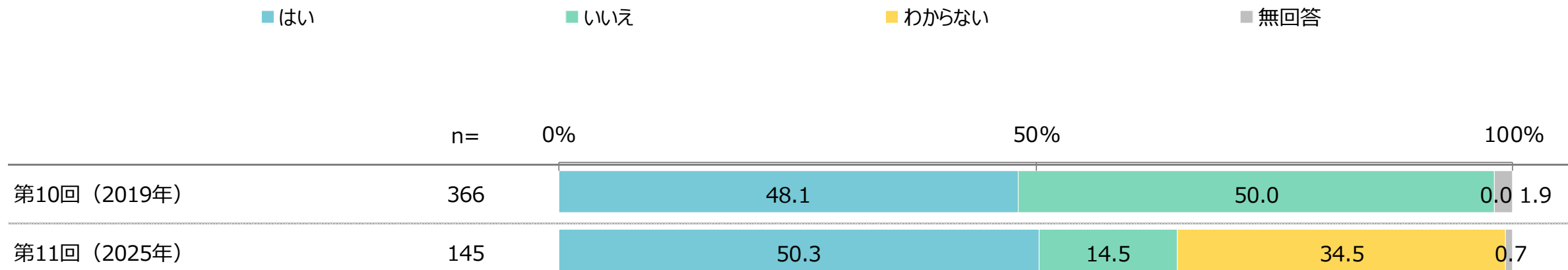
QD_4 仕事や環境に対する考え方

- 仕事や環境に対する考え方の中でも、『仕事に誇りを持っている』と考える人（そう思うTOP2:そう思う+まあそう思うの合計）が多く、90.3%の大多数となっている。
- 一方で、『自分のジャンルでは後継者不足の心配』を感じている人（そう思わないBOTTOM2:あまりそう思わない+そう思わないの合計）が76.5%にのぼり、将来に対する懸念が強く表れている。また、『生活との両立のために拘束時間などの改革が必要だ』と考える人（そう思うTOP2:そう思う+まあそう思うの合計）が77.9%と多く、ワークライフバランスの改善への強い要望がみられる。



QD_5a 10年後も今の仕事を続けていたいと思うか

- 第11回では継続意向が50.3%であり、第10回から1.8ポイントとわずかに増加している。



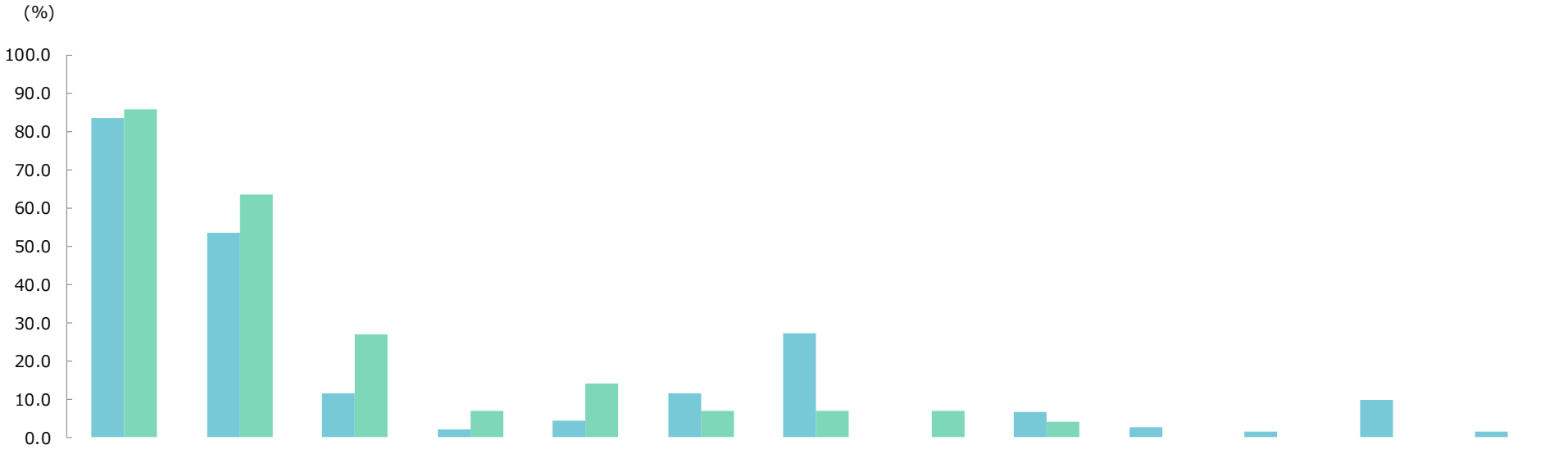
* 第10回と第11回で聴取選択肢が異なる。

QD_5b 10年後は今の仕事を続けていないかもしれないと思う理由（3LA）

【ベース：10年後も今の仕事を続けたいかを「いいえ」「わからない」と回答した人】

- 第10回から第11回の変化として、「収入が低い、不安定だから」や「体力的に」、「人間関係が厳しい」などは増加、「契約・所属先が不安定だから」、「仕事の依頼が減っているから」は減少の傾向となっている。

■ 第10回（2019年） ■ 第11回（2025年）



	n=	年長的に	体力的に	収入が低い、不安定だから	有期契約・有期雇用だから	人間関係が厳しい	契約・所属先が不安定だから	仕事の依頼が減っているから	弟子・生徒数が減っているから	育児・介護など家庭の事情で	関連する他の仕事に移行したいから	転職したい仕事があるから	この分野の仕事が先細りだと思うから	その他
第10回（2019年）	183	83.6	53.6	11.5	2.2	4.4	11.5	27.3	0.0	6.6	2.7	1.6	9.8	1.6
第11回（2025年）	71	85.9	63.4	26.8	7.0	14.1	7.0	7.0	7.0	4.2	－	－	－	－

QD_5c 今の仕事を続けている理由（FA）

全体として、好きなことを仕事にしている人が多く、やりがいや自己実現を重視していることがわかる。一方で、生活のためや現実的な理由で仕事を続けている人も一定数存在。また、社会的な役割や他人への影響を考慮して仕事を続けている人もいることがうかがえる。

■特に多いキーワード（上位5位）

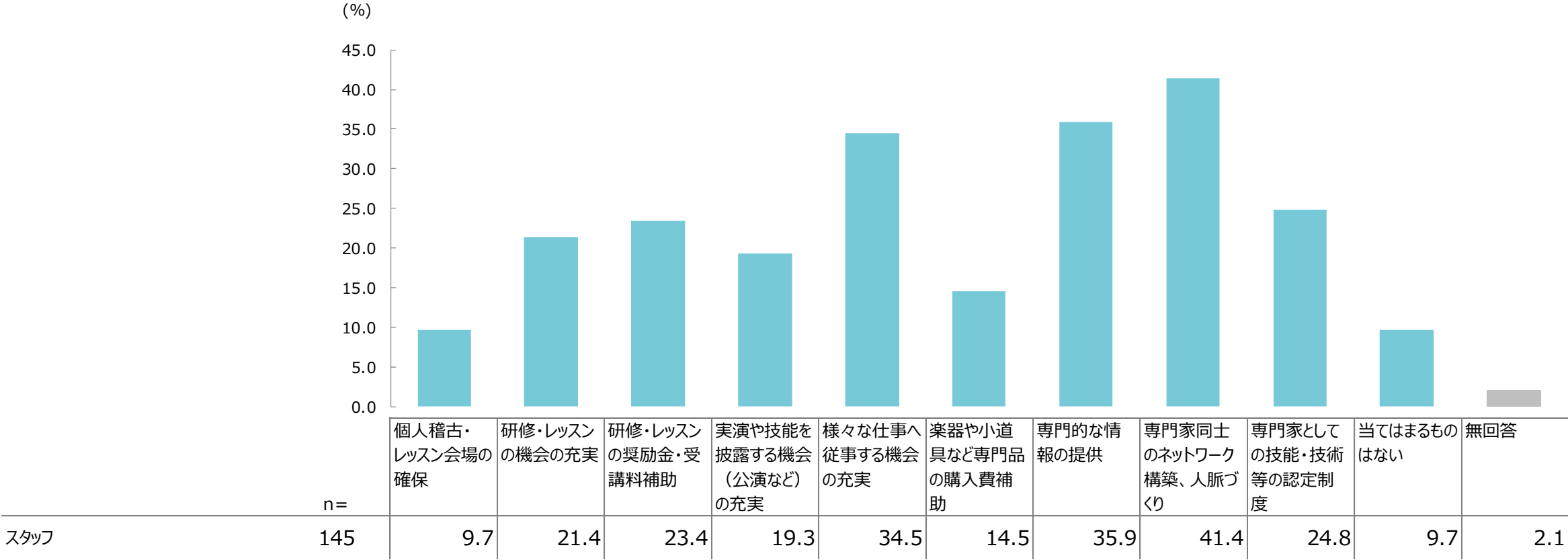
1. 好きだから（19件）
2. やりがいがあるから（14件）
3. 生活のため（10件）
4. 自分に合っているから（8件）
5. 続けてきたから（6件）

■特徴的なコメント

- 「幅広いスキルを有効活用できるし、新たなスキルを学べばそれも活用することができるのでやりがいがある」
- 「次世代に自分の技術を伝承したいと思う。次世代にはもっと良い環境を残したい」
- 「snsなどでのコミュニケーションが多くなった現代、生の舞台に触れることで心を動かすことは、心や感情の育成につながると思う」
- 「自分もたくさんの方々にご指導いただいた。その恩返しをしつつ、後世につなげていきたいと思う」

QD_6 技術・技能を向上させるための必要条件（3LA）

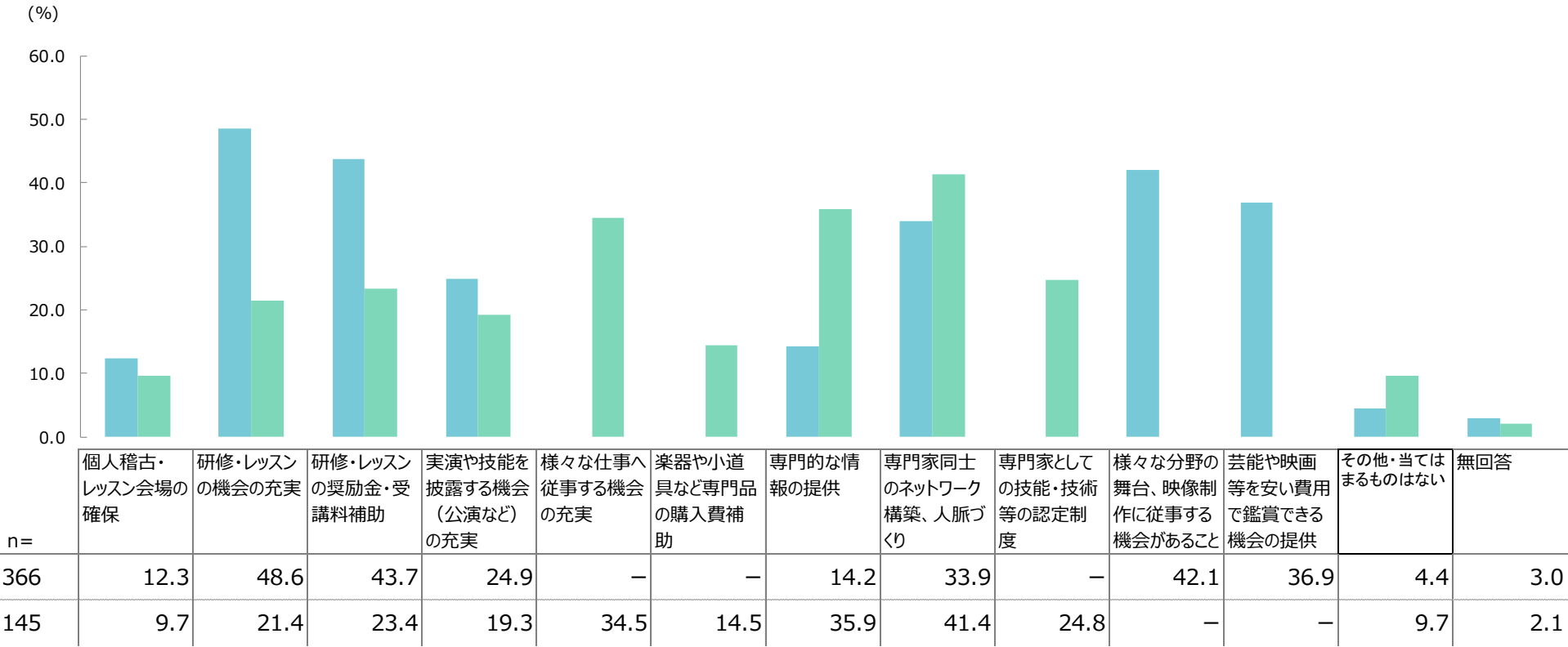
- 技術・技能を向上させるための必要条件としては、「専門家同士のネットワーク構築、人脈づくり」が最も多く41.4%。次いで「専門的な情報の提供」35.9%、「様々な仕事へ従事する機会の充実」34.5%が上位を占めている。



QD_6 技術・技能を向上させるための必要条件（3LA）

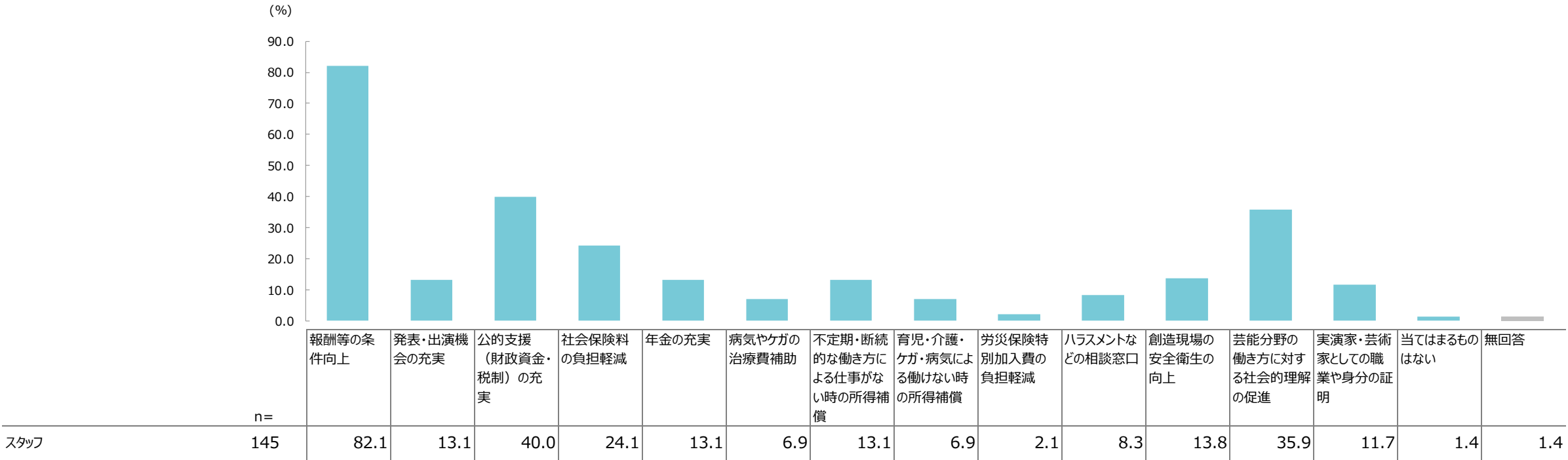
- 第10回から第11回の変化として、「専門的な情報の提供」や「専門家同士のネットワーク構築、人脈づくり」などは増加、「研修・レッスンの機会の充実」、「研修・レッスンの推奨金・受講料補助」などは大幅な減少となっている。

■ 第10回（2019年） ■ 第11回（2025年）



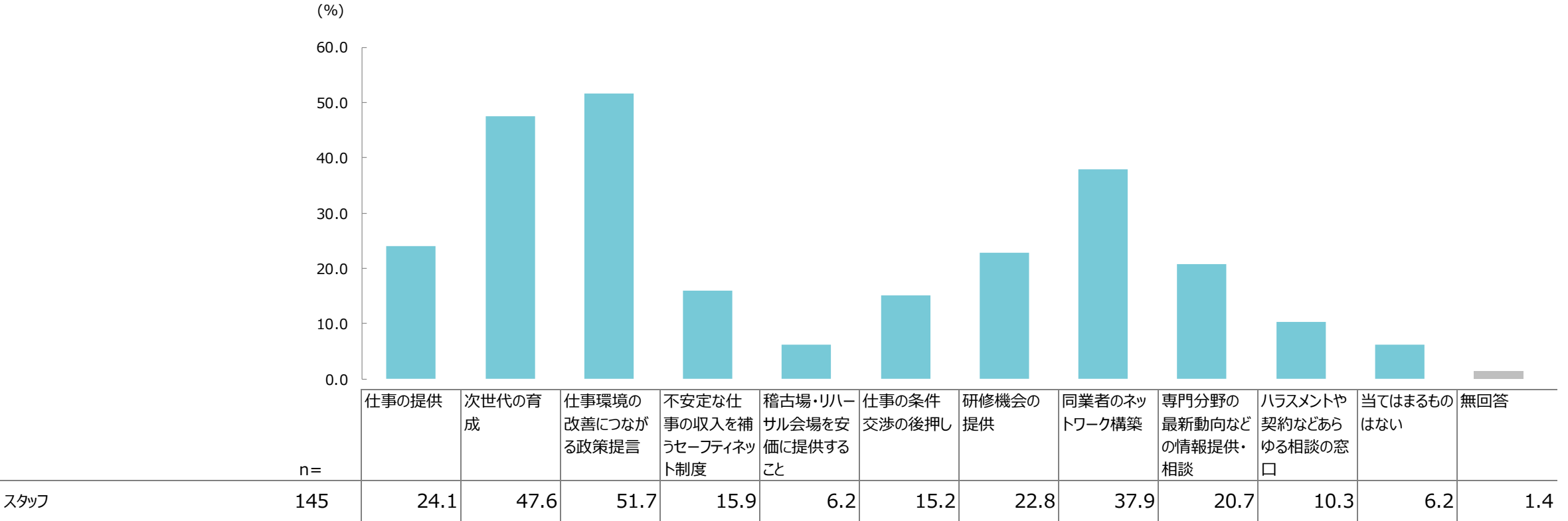
QD_7 安心して芸能活動に取り組むために必要なこと（3LA）

- 安心して芸能活動に取り組むために必要なこととして、「報酬等の条件向上」が82.1%と最も多く、次いで「公的支援（財政資金・税制）の充実」40.0%、「芸能分野の働き方に対する社会的理解の促進」35.9%、「社会保険料の負担軽減」24.1%が上位を占めており、経済面での支援や業界への理解促進が強く求められている。
1位の「報酬等の条件向上」と2位の「公的支援（財政資金・税制）の充実」の間に40ポイント以上の大きな差があり、報酬面での改善が特に強く求められていることがわかる。
- 「創造現場の安全衛生の向上」13.8%や「ハラスメントなどの相談窓口」8.3%など、労働環境の改善に関する項目も一定の支持を得ている。



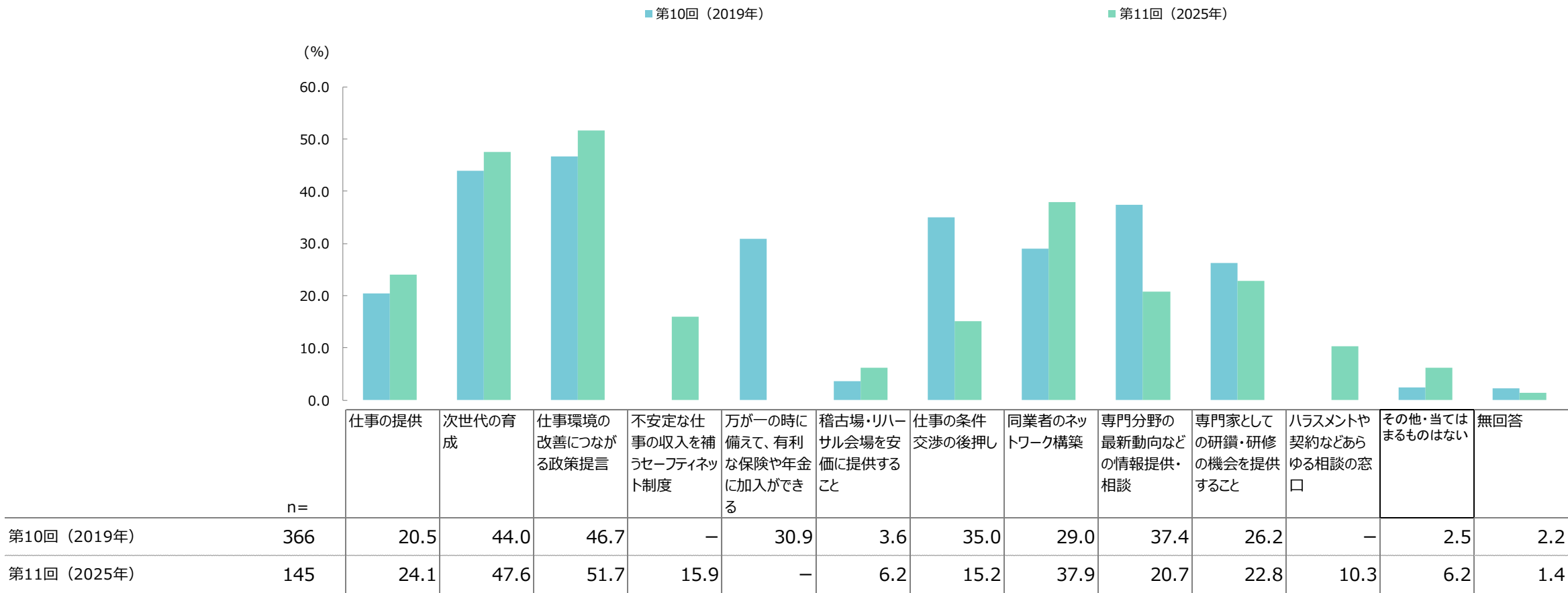
QD_8 会員組織に期待する役割（3LA）

- 会員組織に期待する役割では、「仕事環境の改善につながる政策提言」が51.7%と最も多く、次いで「次世代の育成」47.6%、「同業者のネットワーク構築」37.9%、そして「仕事の提供」24.1%と続き、業界全体の環境改善や次世代育成といった長期的な視点での役割に対する期待が上位となっている。



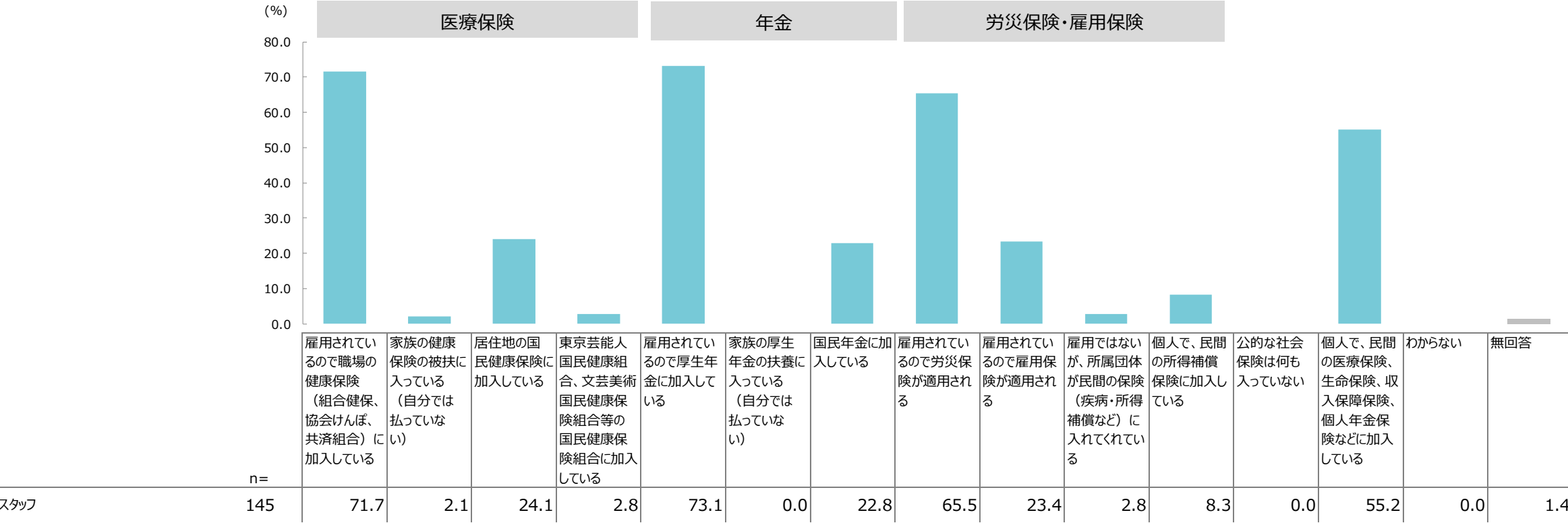
QD_8 会員組織に期待する役割（3LA）

- 第10回から第11回の変化として、「仕事の提供」や「次世代の育成」、「仕事環境の改善につながる政策提言」、「同業者のネットワーク構築」などは増加、「仕事の条件交渉の後押し」、「専門分野の最新動向などの情報提供・相談」は減少傾向となっている。



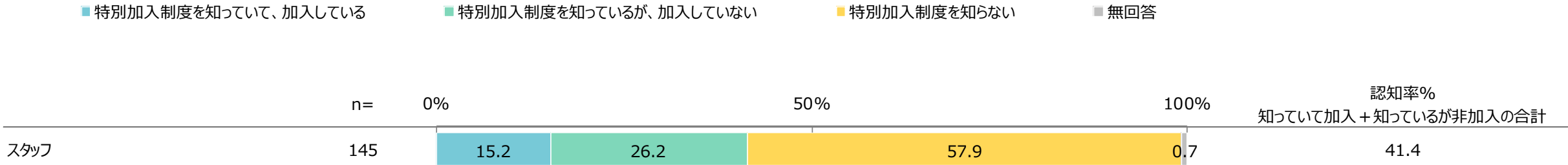
QD_9 ケガや病気、老後に備えるために、加入、適用されている制度（MA）

- ケガや病気、老後に備えるために、加入、適用されている制度では、71.7%が職場の健康保険に、73.1%が厚生年金に、65.5%が労災保険、23.4%が雇用保険の適用を受けると回答しており、QB_5で雇用率が高かったこととつながる。
- また、「個人で民間の医療保険、生命保険などに加入」している割合も55.2%と高く、公的保険に加えて私的保険でも保障を補完している傾向がみられる。



QD_10a 労災保険特別加入制度の加入・認知状況

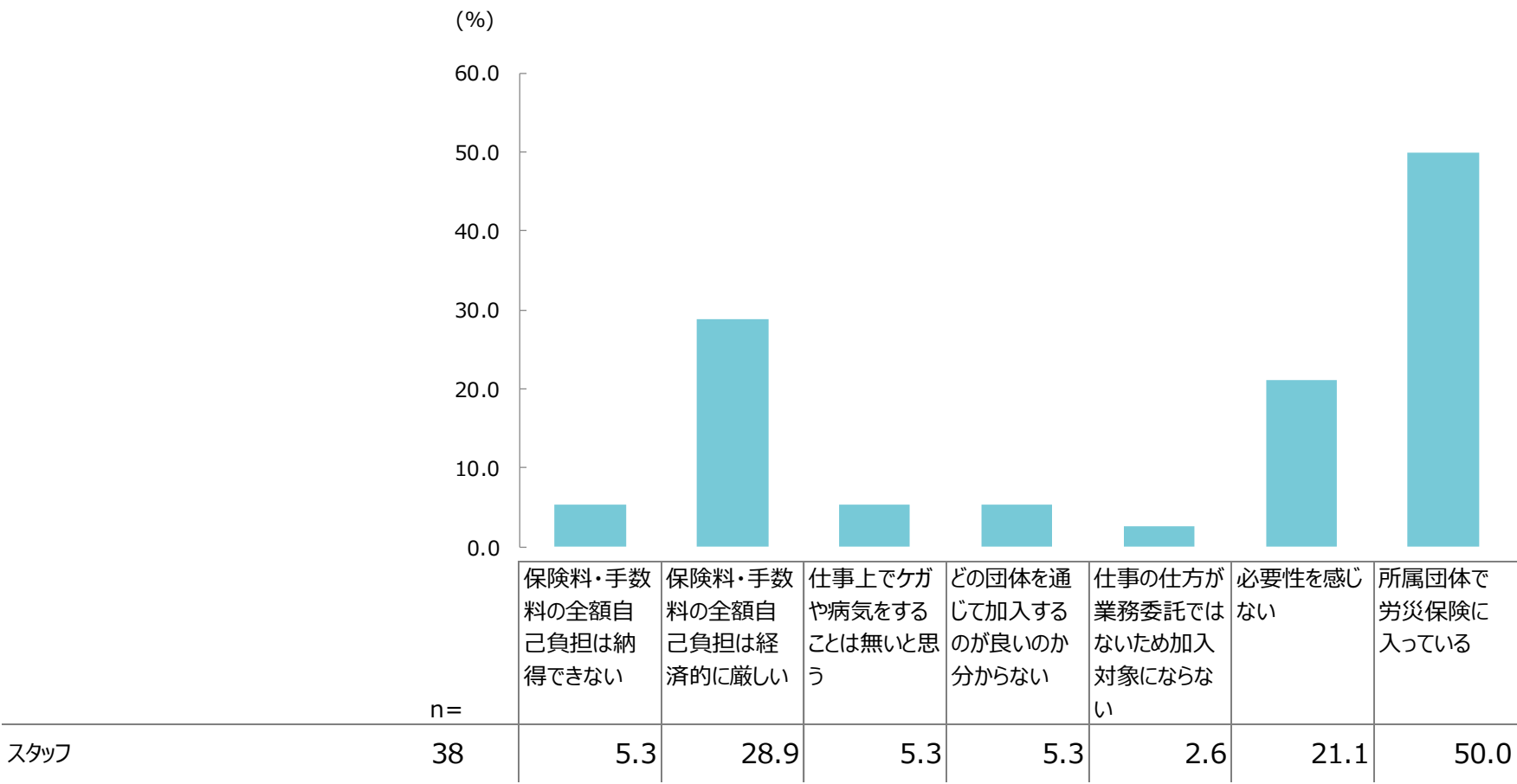
- 過半数（57.9%）が制度を知らないと回答している。制度を知っているが加入していない人が26.2%、知っていて加入している人が15.2%となっている。
- 労災保険特別加入制度の加入・認知状況は、57.9%の過半数が「特別加入制度を知らない」と回答しており、認知度が低いことがわかる。「特別加入制度を知っていて、加入している」15.2%、「特別加入制度を知っているが、加入していない」26.2%となっており、合計した認知率は41.4%と実演家よりは高い割合を示している。



QD_10b 労災保険特別加入制度に入らない理由（MA）

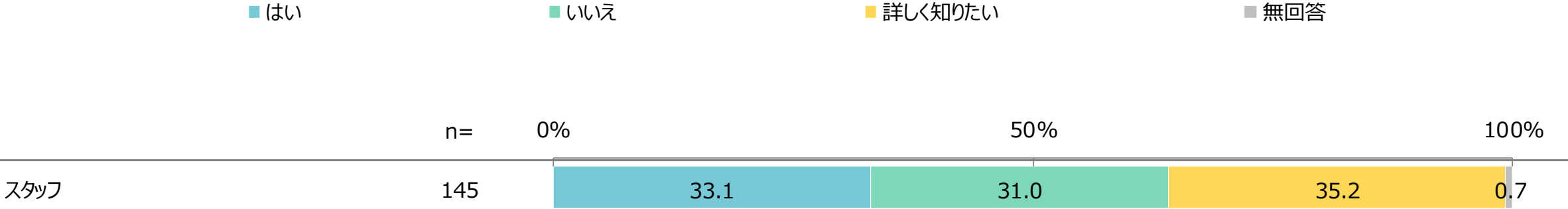
【ベース：「特別加入制度を知っているが、加入していない」人】

- 労災保険特別加入制度に入らない理由としては、「所属団体に労災保険に入っている」が最も多く50.0%と半数占めている。次いで、「保険料・手数料の全額自己負担は経済的に厳しい」28.9%、「必要性を感じない」21.1%の順となっている。



QD_11 「芸術家のための互助プラットフォーム」が実現された場合の加入意向

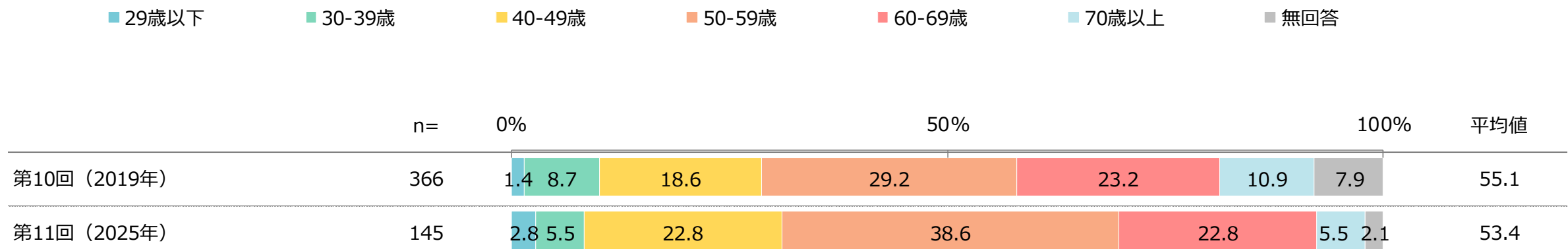
- 「芸術家のための互助プラットフォーム」が実現された場合の加入意向は、「はい（加入意向あり）」33.1%、「いいえ（加入意向なし）」31.0%、「詳しく知りたい」35.2%がほぼ同程度の割合を示している。「詳しく知りたい」の割合が最も高いことから、このプラットフォームに対する関心は高いものの、判断するための情報が不足していることが示唆される。



QD_11 実演家やスタッフが安心して働くことができるよう、個人負担を軽減して労災保険に加入しやすくするため、事業者（発注者）を含めた業界全体でつくる「芸術家のための互助プラットフォーム」（芸能関係作業従事者対象の労災保険特別加入団体の新規設立）が検討されています。この互助プラットフォームが実現された場合、加入したいと思いますか。
※「芸術家のための互助プラットフォーム」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。

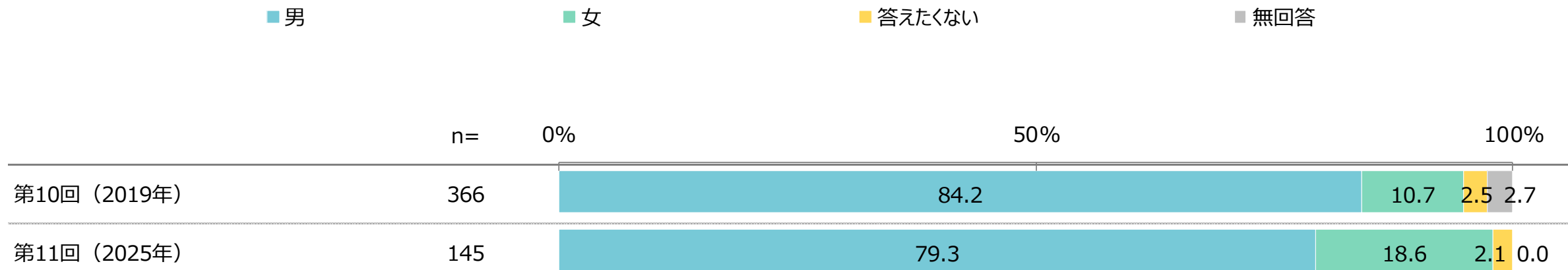
QE_1a 年代

- TOTALの平均年齢は、53.4歳。
「50-59歳」が最も高く38.6%。続いて「40-49歳」と「60-69歳」はともに22.8%。

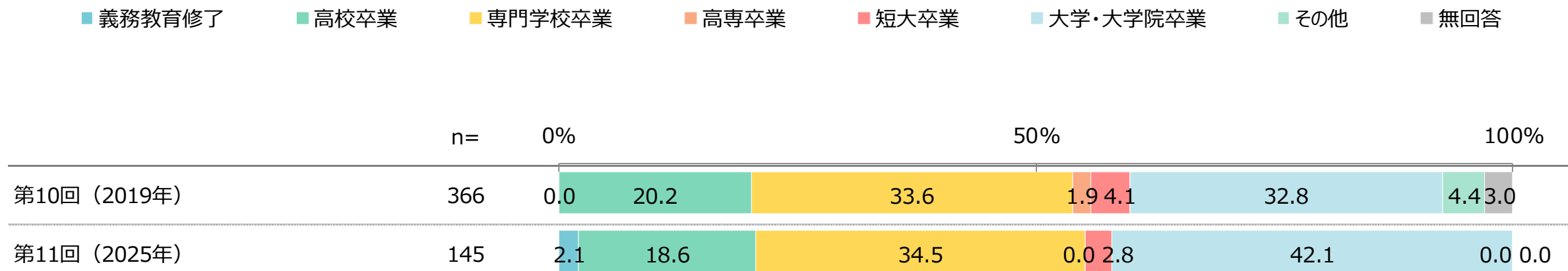


QE_1b 性別

- 第10回よりも女性は7.9%増えたものの、約8割は男性である。

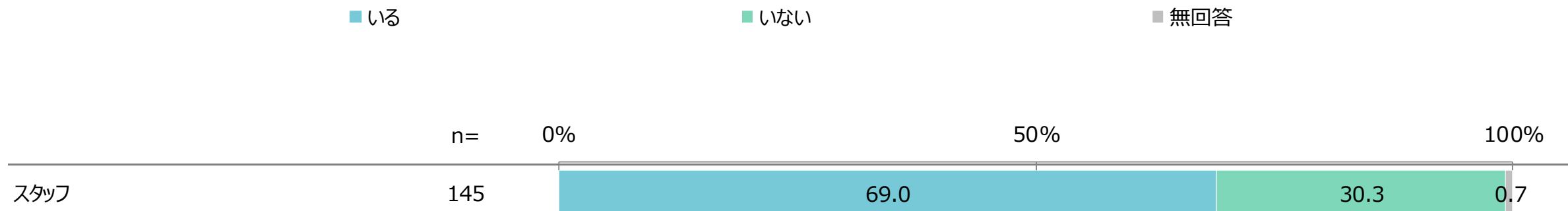


QE_2 最終学歴



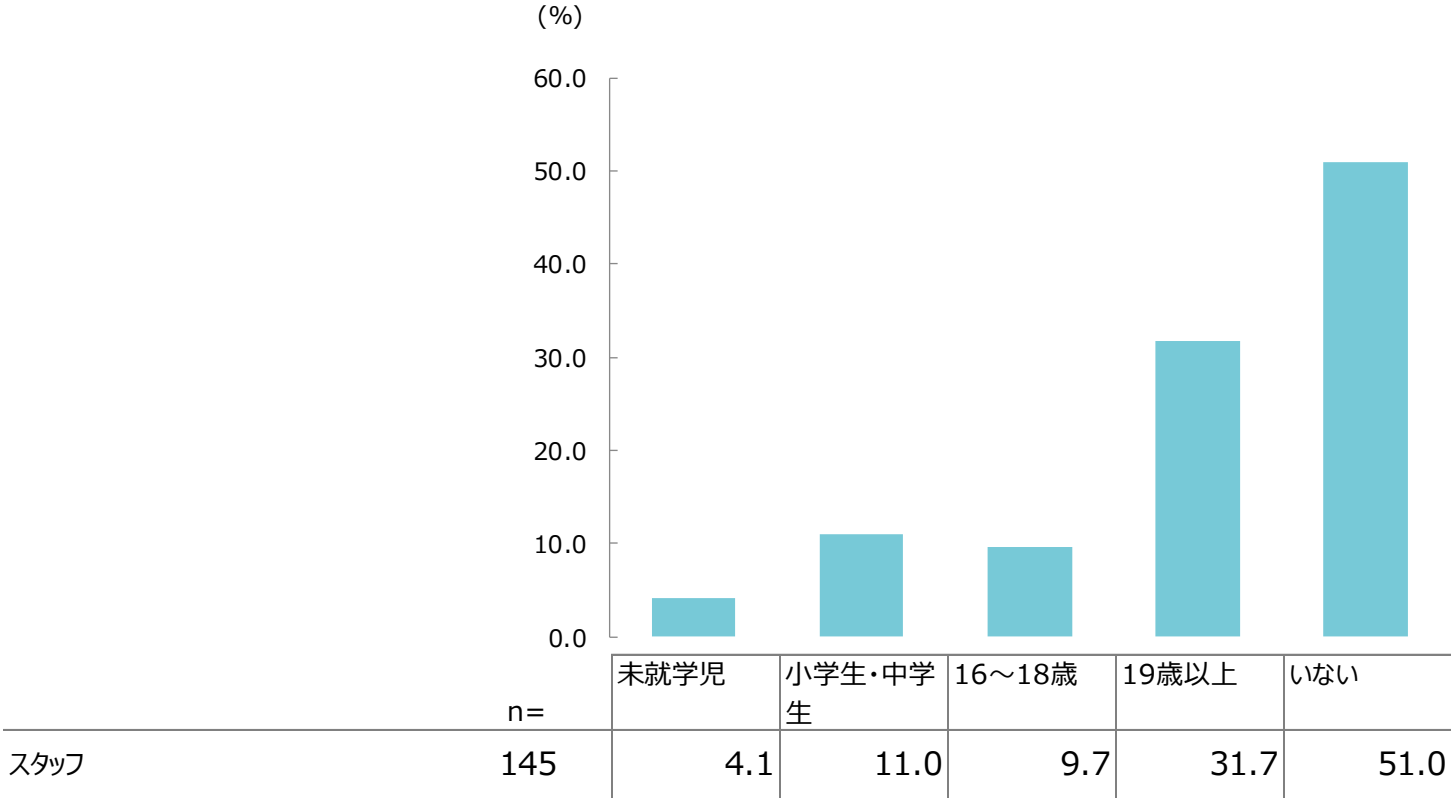
QE_3a 現在、生計を同じくする家族の有無

- スタッフでは、「いる」が最も多く、69.0%。「いない」30.3%が続く。



QE_3b 子供の有無・子供の年代（MA）

- スタッフでは、「19歳以上」が最も多く、31.7%。「小学生・中学生」11.0%、「16～18歳」9.7%が続く。



調査票

実演家・スタッフ共有

第11回 芸能実演家・スタッフの活動と生活実態調査

アンケートにアクセスしていただき、ありがとうございます。

「開始」ボタンを押し、回答を開始してください。

ほとんどが選択肢から選んでいただく質問です。
(平均回答時間 約20分)

【本調査に関するお問い合わせ】

公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会[芸団協]

TEL:03-5353-6600(平日11時～17時)

お問合せフォーム <https://pro.form-mailer.jp/fms/5e01223351981>

ウェブサイト <https://geidankyo.or.jp/>

開始

注意事項

回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。

ご自身と仕事との関わりについて伺います。

QA_1	あなたが現在なさっている活動として、あてはまるものすべてを選んでください。また、そのうち、あなたが主たる活動だと考えているものを一つだけ選んでください。
------	--

※回答必須

1 / 2

現在なさっている活動 (回答はいくつでも)	
☐ 劇やドラマを演じる	☐ 作詞、作曲・編曲をする
☐ 声で演じる・表現する	☐ 振付け、演出、指揮などをする
☐ 唸す・読む・語るなどの芸を演じる	☐ 撮影・録音・録画を行う
☐ 楽器を演奏する	☐ 録音・録画されたものを編集する
☐ 歌・唄、謡をうたう・語る	☐ 舞台監督をする
☐ 踊る・舞う	☐ 美術、照明、音響などのプランをつくる
☐ 人形をあやつる	☐ 大道具、照明、音響などの操作をする
☐ モデルとして表現する	☐ 小道具、衣装などをつくる
☐ 司会・レポートなどを行う	☐ 企画をたてる、制作をする
☐ 教える、指導をする	☐ 主宰、団体運営・経営をする
☐ アクション指導・構成をする	☐ 劇場・ホールの管理をする
☐ 脚本、台本を書く	☐ その他

2 / 2

主たる活動だと考えているもの (回答は1つ)	
☐ 劇やドラマを演じる	☐ 作詞、作曲・編曲をする
☐ 声で演じる・表現する	☐ 振付け、演出、指揮などをする
☐ 唸す・読む・語るなどの芸を演じる	☐ 撮影・録音・録画を行う
☐ 楽器を演奏する	☐ 録音・録画されたものを編集する
☐ 歌・唄、謡をうたう・語る	☐ 舞台監督をする
☐ 踊る・舞う	☐ 美術、照明、音響などのプランをつくる
☐ 人形をあやつる	☐ 大道具、照明、音響などの操作をする
☐ モデルとして表現する	☐ 小道具、衣装などをつくる
☐ 司会・レポートなどを行う	☐ 企画をたてる、制作をする
☐ 教える、指導をする	☐ 主宰、団体運営・経営をする
☐ アクション指導・構成をする	☐ 劇場・ホールの管理をする
☐ 脚本、台本を書く	☐ その他

QA_2	現在あなた自身が携わっている分野をすべて選んでください。また、そのうちあなたが主たる分野だと考えているものを一つだけ選んでください。分野を横断して活動している方は、携わることが一番多い分野を選んでください。
------	---

※回答必須

1 / 2

あなた自身が携わっている分野 (回答はいくつでも)	
《伝統演劇》	
☐ 能楽	☐ 組踊
☐ 人形浄瑠璃・文楽	☐ 歌舞伎
《現代演劇》	
☐ 現代演劇・新劇	☐ 人形劇
☐ 商業演劇	☐ 影絵
☐ 小劇場系演劇	☐ ミュージカル
☐ 児童・青少年演劇	
《伝統音楽・和楽器》	
☐ 雅楽	☐ 長唄
☐ 琵琶	☐ 囃子
☐ 義太夫	☐ 小唄
☐ 常磐津	☐ 三曲
☐ 清元	☐ 民謡
☐ 新内	☐ 琉球古典音楽
☐ 古曲	☐ その他和楽器を使用した音楽
《洋楽・現代音楽》	
☐ オーケストラ・吹奏楽	☐ J-POP・フォーク
☐ 室内楽	☐ ロック・ソウル・R&B
☐ オペラ・オペレッタ	☐ ダンス・ヒップホップミュージック
☐ 合唱	☐ 民族音楽
☐ ソロ（演奏）	☐ 演歌・流行歌
☐ ソロ（歌唱）	☐ その他の洋楽・現代音楽
☐ ジャズ	
《邦舞》	
☐ 日本舞踊	☐ 琉球舞踊

《洋舞など》	
☐ バレエ	☐ フラメンコ
☐ 現代舞踊・コンテンポラリーダンス	☐ ベリーダンス
☐ ジャズダンス	☐ パントマイム
☐ 児童舞踊	☐ パフォーマンス
☐ 舞踏	☐ その他の舞踊

《演芸》	
☐ 落語	☐ 奇術
☐ 講談	☐ 曲芸・太神楽
☐ 浪曲	☐ クラウン
☐ 漫才	☐ 物真似
☐ 漫談	☐ 司会

《メディアなど》	
☐ 映画	☐ インターネットTV・配信
☐ 放送（テレビ、ラジオ等）・スタジオ	☐ CM
☐ 録音・スタジオ録画	☐ ナレーション
☐ ビデオ、DVD	☐ ショー・イベント・プロモーション
☐ 外国映画、アニメ	☐ モデル
☐ ミュージックビデオ	

☐ その他 	
--	--

QA_2	現在あなたが携わっている分野をすべて選んでください。また、そのうちあなたが主たる分野だと考えているものを一つだけ選んでください。分野を横断して活動している方は、携わることが一番多い分野を選んでください。
------	---

※回答必須

2 / 2

主たる分野だと考えているもの (回答は1つ)

《伝統演劇》	
☐ 能楽	☐ 組踊
☐ 人形浄瑠璃・文楽	☐ 歌舞伎

《現代演劇》	
☐ 現代演劇・新劇	☐ 人形劇
☐ 商業演劇	☐ 影絵
☐ 小劇場系演劇	☐ ミュージカル
☐ 児童・青少年演劇	

《伝統音楽・和楽器》	
☐ 雅楽	☐ 長唄
☐ 琵琶	☐ 囃子
☐ 義太夫	☐ 小唄
☐ 常磐津	☐ 三曲
☐ 清元	☐ 民謡
☐ 新内	☐ 琉球古典音楽
☐ 古曲	☐ その他和楽器を使用した音楽

《洋楽・現代音楽》	
☐ オーケストラ・吹奏楽	☐ J-POP・フォーク
☐ 室内楽	☐ ロック・ソウル・R&B
☐ オペラ・オペレッタ	☐ ダンス・ヒップホップミュージック
☐ 合唱	☐ 民族音楽
☐ ソロ（演奏）	☐ 演歌・流行歌
☐ ソロ（歌唱）	☐ その他の洋楽・現代音楽
☐ ジャズ	☐

《邦舞》	
☐ 日本舞踊	☐ 琉球舞踊

《洋舞など》	
☐ バレエ	☐ フラメンコ
☐ 現代舞踊・コンテンポラリーダンス	☐ ベリーダンス
☐ ジャズダンス	☐ バントマイム
☐ 児童舞踊	☐ パフォーマンス
☐ 舞踏	☐ その他の舞踊

《演芸》	
☐ 落語	☐ 奇術
☐ 講談	☐ 曲芸・太神楽
☐ 浪曲	☐ クラウン
☐ 漫才	☐ 物真似
☐ 漫談	☐ 司会

《メディアなど》	
☐ 映画	☐ インターネットTV・配信
☐ 放送（テレビ、ラジオ等）・スタジオ	☐ CM
☐ 録音・スタジオ録画	☐ ナレーション
☐ ビデオ、DVD	☐ ショー・イベント・プロモーション
☐ 外国映画、アニメ	☐ モデル
☐ ミュージックビデオ	

その他	
☐	

あなたの芸歴、活動年数について伺います。

QA_3	いまの活動分野に関わり始めてから何年ですか。習いはじめ、養成期間を含む年数を入力してください。また、出演料、教授料など報酬を得るようになってから何年ですか。
------	--

※1年未満の場合は「1年0カ月」と入力してください。

活動分野に関わり始めてからの年数

	年
----------------------	---

	カ月
----------------------	----

報酬を得るようになってからの年数

	年
----------------------	---

	カ月
----------------------	----

ご自身のお仕事について伺います。

QB_1	次のうち、あなたが所属している集団、流派、組織等は何ですか。あてはまるものすべてを選んでください。また、選択したもののうち、あなたと最も関係の深いものを一つ選んでください。
------	--

1 / 2

所属している集団、流派、組織等 (回答はいくつでも)

☐ 劇団、舞踊団・バレエ団、オペラ団、合唱団、オーケストラ、バンドなどの公演創造集団
☐ 映画会社、興行会社、企画制作会社、音響・照明会社など
☐ 俳優、音楽、芸能などのマネジメント事務所、プロダクション
☐ 職能・分野ごとの協会・連盟・組合など
☐ 芸を継承する流派・一門・社中
☐ ライブハウス、クラブ、キャバレーなどの商業施設
☐ 教室、研修所、学校などの教育機関
☐ 劇場、音楽堂、コンサートホールなどの文化施設

2 / 2

最も関係の深いもの (回答は1つ)

☐ 劇団、舞踊団・バレエ団、オペラ団、合唱団、オーケストラ、バンドなどの公演創造集団
☐ 映画会社、興行会社、企画制作会社、音響・照明会社など
☐ 俳優、音楽、芸能などのマネジメント事務所、プロダクション
☐ 職能・分野ごとの協会・連盟・組合など
☐ 芸を継承する流派・一門・社中
☐ ライブハウス、クラブ、キャバレーなどの商業施設
☐ 教室、研修所、学校などの教育機関
☐ 劇場、音楽堂、コンサートホールなどの文化施設

QB_2	あなたが昨年1年間（2024年1月から12月末まで）に行なった芸能に関わる仕事と、それ以外の仕事について、あてはまるものすべてを選んでください。また、昨年1年間にそれぞれのお仕事にあなたが費やしたおおよその日数をお答えください。
------	--

※1日の活動時間が数十分～数時間程度の仕事でも「1日」としてカウントしてください。

芸能に関わる仕事	
☐ 舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントなどの出演・スタッフ業（本番）・・・	日
☐ 舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントのための稽古（リハーサル、移動日を含む）・・・	日
☐ 映画・放送・メディア、雑誌などの仕事 （テレビ・ラジオ出演・演奏、アテレコ、ビデオ出演、レコーディング、CM撮影、雑誌などのインタビューなど）・・・	日
☐ 「映画・放送・メディア、雑誌などの仕事」のうち、インターネット（Netflixなど）で配信される独自番組の収録　・・・	日
☐ 映画・放送・メディア、雑誌などの仕事のための稽古（リハーサル、移動日を含む）・・・	日
☐ 振付、演出・指揮、作曲・編曲・作詞、台本執筆、デザインなど（自宅などで個人での作業を含む）・・・	日
☐ 企画・プロデュース・制作　・・・	日
☐ 教える・指導する仕事　・・・	日
☐ 芸能に関連するその他の活動（関連する講演、執筆、スタッフや組織などでの活動）・・・	日
☐ 技能を維持するための研鑽、トレーニング、仕事に必要なリサーチ、研究など　・・・	日

芸能活動以外の仕事	
☐ 芸能活動以外の仕事（事業経営、パート・アルバイトなど）・・・	日

昨年1年間の芸能に関わる仕事として「教える・指導する仕事」を選んだ方にのみお伺いします。

QB_3a	あなたがなされている「教える・指導する仕事」について、あてはまるものすべてを選んでください。
-------	--

☐ 学校や教室、養成機関に勤めて定期的・恒常的に教えている
☐ 自分で教室を主宰したり、弟子をとって教えている
☐ 不定期で、学校・教室・教育機関での指導などを依頼される
☐ 不定期で、ワークショップ等で体験指導などを依頼される

教える・指導する仕事について、「学校や教室、養成機関に勤めて定期的・恒常的に教えている」を選んだ方にのみお伺いします。

QB_3b	あなたが勤めているのはどんなところですか。あてはまるものすべてを選んでください。
-------	--

☐ 大学・大学院・短大・専門学校
☐ 小学校・中学校・高校
☐ 幼稚園、保育園
☐ 劇団、舞踊団、プロダクションなどの付属養成機関
☐ 民間のカルチャースクール、音楽教室等
☐ 個人が主催する音楽教室、バレエ教室等
☐ 企業や劇場などの法人からの依頼
☐ 自治体が主催のもの

QB_4	あなた個人の昨年1年間（2024年1月から12月末まで）の税込みの総収入（芸能以外の仕事による収入も含む）はおおよそいくらでしたか。
------	--

☐ 100万円未満	☐ 1200～1300万円未満
☐ 100～200万円未満	☐ 1300～1400万円未満
☐ 200～300万円未満	☐ 1400～1500万円未満
☐ 300～400万円未満	☐ 1500～1600万円未満
☐ 400～500万円未満	☐ 1600～1700万円未満
☐ 500～600万円未満	☐ 1700～1800万円未満
☐ 600～700万円未満	☐ 1800～1900万円未満
☐ 700～800万円未満	☐ 1900～2000万円未満
☐ 800～900万円未満	☐ 2000～2500万円未満
☐ 900～1000万円未満	☐ 2500～3000万円未満
☐ 1000～1100万円未満	☐ 3000万円以上
☐ 1100～1200万円未満	

QB_5	あなた個人の昨年1年間（2024年1月から12月末まで）の年収を、仕事の種類別に分けると、どのような割合になりますか。おおよその割合を入力してください。
------	--

※すべての項目の合計が100になるようにお答えください。該当しない仕事には「0」（ゼロ）を入力してください。小数点以下、四捨五入。

舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントなどの出演・スタッフ業
%

映画・放送・メディアの出演・スタッフ業
%

振付、演出・指揮、作曲・編曲・作詞、台本執筆、デザイン、企画・プロデュース・制作
%

教える・指導する仕事
%

原稿料、著作権料、著作隣接権利
%

芸能に関連するその他の仕事
%

不動産、その他の事業経営
%

年金
%

上記以外の収入（芸能に関連しない仕事を含む）
%

合計： _____

QB_6 あなたが得ている報酬を、形式別に分けると、どのような割合になりますか(芸能以外の収入も含む)。おおよその数字を欄内に入力してください。

※すべての項目の合計が100になるようにお答えください。該当しない仕事には「0」(ゼロ)を入力してください。小数点以下、四捨五入。

雇用による、月給、年俸などのあらかじめ決められた賃金

0 %

業務委託による、年俸などのあらかじめ決められた報酬

0 %

業務委託による、仕事に応じて支払われる報酬
(月間・年間であらかじめ金額が決められてはいない報酬)

0 %

事業運営による収入(自らが主催)

0 %

会社経営による報酬

0 %

その他(著作権料・著作権接権料、不動産、年金など)

0 %

合計: _____

仕事をするうえでの環境や条件について伺います。

2023年10月にインボイス制度が導入され、2024年11月にはフリーランス・事業者間取引適正化等法(フリーランス法)が施行されました。これらの制度によるご自身の活動への影響を伺います。

※「インボイス制度」「フリーランス・事業者間取引適正化等法」のリンクをクリックすると、それぞれの説明文が別画面で表示されます。

「雇用による、月給、年俸などのあらかじめ決められた賃金」以外の報酬を得ているとお答えの方にお伺いします。

QC_1a インボイス制度の導入以前は、課税事業者でしたか。

※「インボイス制度」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。

- ☐ 課税事業者だった
- ☐ 免税事業者だった

インボイス制度導入以前は「免税事業者だった」と答えた方のみにお伺いします。

QC_1b インボイス制度導入を受けて、適格請求書発行事業者登録(課税事業者に転換)をしましたか。

※「インボイス制度」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。

- ☐ した
- ☐ していない(免税事業者のまま)

インボイス制度導入後、適格請求書発行事業者登録を「していない(免税事業者のまま)」と答えた方のみにお伺いします。

QC_1c 適格請求書発行事業者の登録をしていない理由は何ですか。当てはまるものすべてを選んでください。

- ☐ 税負担が増えると活動継続が難しい
- ☐ 事務作業が煩雑になるから
- ☐ 仕事相手の対応も含めて様子を見ている
- ☐ 経過措置期間は様子を見るつもり
- ☐ 特に必要性を感じない
- ☐ 制度に反対だから
- ☐ これから登録する予定である

QC_2 インボイス制度の導入によって芸能活動への影響はありましたか。とくに当てはまるものを3つまで選んでください。

※「インボイス制度」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。

- ☐ 特に影響は感じない
- ☐ 適格請求書発行事業者かどうかを事前に確認するようになった
- ☐ 価格や報酬の交渉が増えた
- ☐ 消費税の負担によって事実上の収益減となった
- ☐ 事務負担が増えた
- ☐ 消費税分の報酬が減額された
- ☐ 適格請求書発行事業者登録するよう依頼元から圧力がある
- ☐ 仕事の依頼が増えた
- ☐ 継続的な依頼が減った
- ☐ 新規の依頼が減った
- ☐ 依頼先への説明が大変になった
- ☐ 適格請求書発行事業者登録をしていない人への依頼は控えるようになった

2023年10月にインボイス制度が導入され、2024年11月にはフリーランス・事業者間取引適正化等法(フリーランス法)が施行されました。これらの制度によるご自身の活動への影響を伺います。

QC_3 2024年11月に「フリーランス・事業者間取引適正化等法」(通称:フリーランス法)が施行されたことを知っていますか。

※「インボイス制度」「フリーランス・事業者間取引適正化等法」のリンクをクリックすると、それぞれ説明文が別画面で表示されます。

- ☐ 法律の内容も理解している
- ☐ 名前は知っているが内容は知らない
- ☐ 知らない
- ☐ 自分には関係がないと思う

以下の質問では、個人で仕事をしている人、団体や事務所に所属していても雇用関係ではない働き方の人たちを「**個人事業者**」という表記にしています。

QC_4	あなたは、個人事業者として受注する側（報酬等を受け取る側）、個人事業者へ発注する側（報酬等を支払う側）、どちらの立場になりますか。
☐ 報酬等を受け取る側（受注者） ☐ 報酬等を支払う側（依頼者・発注者） ☐ 場合によってどちらにもなる ☐ どちらにも当てはまらない	

個人事業者の立場として「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた方にお伺いします。

QC_5	直近で受けた仕事について、依頼される際に仕事内容や条件はどのような形式で知らされましたか。当てはまるものすべてを選んでください。
☐ メール、SNS ☐ FAX ☐ 電話・口頭 ☐ 書面による依頼文・通知書、日程表など ☐ 契約書	

個人事業者の立場として「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた方にお伺いします。

QC_6	仕事を依頼される際に、文書による事前通知、契約が増えましたか。
☐ 増えた ☐ 減った ☐ 変わらない	

個人事業者の立場として「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた方にお伺いします。

QC_7	直近で受けた仕事について、依頼される際にどのような内容が事前に知らされましたか。当てはまるものすべてを選んでください。
☐ 実施日などのスケジュール ☐ 具体的な仕事内容 ☐ 報酬額 ☐ 報酬の支払予定日 ☐ 実施場所 ☐ 自身が経費負担する部分 ☐ 著作権などの権利関係 ☐ 仕事内容に関する情報公開・発信についての条件 ☐ 仕事が中止となった場合のキャンセル料 ☐ 仕事上で怪我をした場合の補償の有無 ☐ ハラスメント等の相談可否	

個人事業者の立場として「報酬等を受け取る側（受注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた方にお伺いします。

QC_8a	フリーランス法の施行後（2024年11月以降）に、変化したことはありますか。依頼される側の立場で、あてはまるものすべてを選んでください。
-------	--

※「フリーランス法」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。

☐ 仕事内容が具体的に明示されるようになった	☐ 依頼主からの一方的な変更が減った
☐ 実施日などのスケジュールが明示されるようになった	☐ 育児・介護等への配慮がされるようになった
☐ 報酬が事前に示されるようになった	☐ ハラスメント対策がされるようになった
☐ 支払期日が明示されるようになった	☐ 仕事が中止になった場合のキャンセル料が明示されるようになった
☐ 実施場所が明示されるようになった	☐ 怪我をした場合の補償の有無が明示されるようになった
☐ 自身が経費負担する部分が明示されるようになった	☐ 不利な内容が一方的に示されるようになった
☐ 仕事内容に関する情報公開・発信についての条件が明示されるようになった	☐ 依頼主との交渉は難しくなった
☐ 事前に条件面を文書で示されるようになった	☐ 書面契約などの手続きが繁雑になった
☐ 著作権などの権利関係が明示されるようになった	☐ これまでの取引先からの業務委託が減った
☐ 期日通りの報酬支払いが増えた	☐ まだ具体的な変化はわからない
☐ 詳細の確認や交渉がしやすくなった	☐ 何も変わっていない

個人事業者の立場として「報酬等を支払う側（依頼者・発注者）」「場合によってどちらにもなる」と答えた方にお伺いします。

QC_8b	フリーランス法の施行後（2024年11月以降）に、変化したことはありますか。依頼する側の立場で、あてはまるものすべてを選んでください。
-------	---

※「フリーランス法」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。

☐ 事前に仕事内容を具体的に明示するようになった	☐ 一方的な条件変更はしないよう注意するようになった
☐ 実施日などのスケジュールを明示するようになった	☐ 育児・介護等への配慮をするようになった
☐ 報酬を事前に示すようになった	☐ ハラスメント対策をするようになった
☐ 支払期日を明示するようになった	☐ 仕事が中止になった場合のキャンセル料を明示するようになった
☐ 実施場所を明示するようになった	☐ 怪我をした場合の補償の有無を明示するようになった
☐ 依頼先の個人が経費負担する部分を明示するようになった	☐ 依頼先からの条件確認や交渉が増えた
☐ 仕事内容に関する情報公開・発信についての条件を明示するようになった	☐ 書面契約などの事務手続きが繁雑になった
☐ 事前に条件面を文書で示すようになった	☐ まだ具体的な変化は感じていない
☐ 著作権などの権利関係を明示するようになった	☐ 何も変わっていない
☐ 期日通りに報酬支払いするようになった	

仕事や生活に対する意識について伺います。

QD_1	仕事の機会は、2019年(コロナ禍前)と比べて増えましたか、減っていますか。
------	--

1/8

舞台、コンサート、ライブ、寄席、ショー、イベントなどの出演・スタッフ業

☐ 大幅に増えた
☐ 増えた
☐ 変わらない
☐ やや減った
☐ 大幅に減った
☐ この仕事はしていない

2/8

映画・放送・メディアの仕事

☐ 大幅に増えた
☐ 増えた
☐ 変わらない
☐ やや減った
☐ 大幅に減った
☐ この仕事はしていない

3/8

インターネット配信される動画コンテンツの仕事

☐ 大幅に増えた
☐ 増えた
☐ 変わらない
☐ やや減った
☐ 大幅に減った
☐ この仕事はしていない

4/8

振付、演出・指揮、作曲・編曲・作詞、台本執筆、デザインなど

☐ 大幅に増えた
☐ 増えた
☐ 変わらない
☐ やや減った
☐ 大幅に減った
☐ この仕事はしていない

5/8

企画・プロデュース・制作

☐ 大幅に増えた
☐ 増えた
☐ 変わらない
☐ やや減った
☐ 大幅に減った
☐ この仕事はしていない

6/8

教える仕事（ワークショップ・体験指導も含む）

☐ 大幅に増えた
☐ 増えた
☐ 変わらない
☐ やや減った
☐ 大幅に減った
☐ この仕事はしていない

7/8

芸能に関連するその他の活動

☐ 大幅に増えた
☐ 増えた
☐ 変わらない
☐ やや減った
☐ 大幅に減った
☐ この仕事はしていない

8/8

芸能活動以外の仕事

☐ 大幅に増えた
☐ 増えた
☐ 変わらない
☐ やや減った
☐ 大幅に減った
☐ この仕事はしていない

QD_2	2024年の芸能活動からの収入は、2019年(コロナ禍前)と比べて増えましたか、減っていますか。
------	--

☐ 増えた
☐ 変わらない
☐ 75%程度に減った
☐ 50%程度に減った
☐ 25%程度に減った
☐ 活動はしているが収入はなくなった
☐ 芸能活動はやめた

QD_3	2020年以降の芸能活動について、そうだと思うものをすべてを選んでください。
------	--

☐ オンライン配信が増えた
☐ SNSやブログなどの活用が増えた
☐ 海外からの反響が増えた
☐ 同業者が増えた
☐ 同業者が減った
☐ 新しく業界に入る人が増えた
☐ 新しく業界に入る人が減った
☐ 新たな観客層が広がった、増えた
☐ 観客が減った
☐ 弟子・教え子が増えた
☐ 弟子・教え子が減った
☐ 仕事と収入の変動が激しく、補償の仕組みがないこと、地位が不安定であることを痛感した
☐ とくに当てはまるものはない

QD_4 仕事や環境についてどう捉えていますか。

1/10

自分の仕事は世の中から評価されている

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

2/10

自分の能力を十分発揮できている

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

3/10

仕事に誇りを持っている

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

4/10

仕事量・機会には満足している

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

5/10

自分のジャンルは、これからも発展していくと思う

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

6/10

自分のジャンルでは後継者不足の心配はない

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

7/10

生の舞台・公演はこれからも活況だと思う

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

8/10

自分がやりたくないと思う仕事は断ることができる

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

9/10

生活との両立のために拘束時間などの改革が必要だ

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

10/10

ハラスメントが減った／ハラスメントの不安が減った

そう思う

まあ
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

QD_5a 10年後も今の仕事を続けたいと思いますか。

☐ はい

☐ いいえ

☐ わからない

10年後も今の仕事を続けたいかを「いいえ」「わからない」と回答した方のみに伺います。

QD_5b 10年後は今の仕事を続けていないかもしれないと思う理由は何ですか。特にそうだと思うものを3つまで選んでください。

☐ 年齢的に

☐ 体力的に

☐ 収入が低い、不安定だから

☐ 有期契約・有期雇用だから

☐ 人間関係が厳しい

☐ 契約・所属先が不安定だから

☐ 仕事の依頼が減っているから

☐ 弟子・生徒数が減っているから

☐ 育児・介護など家庭の事情で

QD_5C 今の仕事を続けている理由は何ですか。(自由記述)

QD_6 技術・技能を向上させるための支援として、とくに必要だと思うものを3つまで選んでください。

☐ 個人稽古・レッスン会場の確保

☐ 研修・レッスンの機会の充実

☐ 研修・レッスンの奨励金・受講料補助

☐ 実演や技能を披露する機会（公演など）の充実

☐ 様々な仕事へ従事する機会の充実

☐ 楽器や小道具など専門品の購入費補助

☐ 専門的な情報の提供

☐ 専門家同士のネットワーク構築、人脈づくり

☐ 専門家としての技能・技術等の認定制度

☐ 当てはまるものはない

QD_7 安心して芸能活動に取り組むために必要なことはなんですか。とくに当てはまるものを3つまで選んでください。

☐	報酬等の条件向上
☐	発表・出演機会の充実
☐	公的支援（財政資金・税制）の充実
☐	社会保険料の負担軽減
☐	年金の充実
☐	病気やケガの治療費補助
☐	不定期・断続的な働き方による仕事がない時の所得補償
☐	育児・介護・ケガ・病気による働けない時の所得補償
☐	労災保険特別加入費の負担軽減
☐	ハラスメントなどの相談窓口
☐	創造現場の安全衛生の向上
☐	芸能分野の働き方に対する社会的理解の促進
☐	実演家・芸術家としての職業や身分の証明
☐	当てはまるものはない

QD_8 協会・連盟・組合などの会員組織に期待する役割は何ですか。とくに当てはまるものを3つまで選んでください。

☐	仕事の提供
☐	次世代の育成
☐	仕事環境の改善につながる政策提言
☐	不安定な仕事の収入を補うセーフティネット制度
☐	稽古場・リハーサル会場を安価に提供すること
☐	仕事の条件交渉の後押し
☐	研修機会の提供
☐	同業者のネットワーク構築
☐	専門分野の最新動向などの情報提供・相談
☐	ハラスメントや契約などあらゆる相談の窓口
☐	当てはまるものはない

QD_9 万が一のケガや病気、老後に備えるために、加入、適用されている制度についてお答えください。

《健康保険》	
☐	雇用されているので職場の健康保険（組合健保、協会けんぽ、共済組合）に加入している
☐	家族の健康保険の被扶に入っている（自分では払っていない）
☐	居住地の国民健康保険に加入している
☐	東京芸能人国民健康組合、文芸美術国民健康保険組合等の国民健康保険組合に加入している

《年金》	
☐	雇用されているので厚生年金に加入している
☐	家族の厚生年金の扶養に入っている（自分では払っていない）
☐	国民年金に加入している

《労災保険・雇用保険など》	
☐	雇用されているので労災保険が適用される
☐	雇用されているので雇用保険が適用される
☐	雇用ではないが、所属団体が民間の保険（疾病・所得補償など）に入れてくれている
☐	個人で、民間の所得補償保険に加入している

その他	
☐	公的な社会保険は何も入っていない
☐	個人で、民間の医療保険、生命保険、収入保障保険、個人年金保険などに加入している
☐	わからない

QD_10a 仕事上のケガ、病気、死亡などを補償する**労災保険特別加入制度**に入っていますか。

※「**労災保険特別加入制度**」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。
※**雇用主が加入する労災保険とは異なります。**

☐	特別加入制度を知っていて、加入している
☐	特別加入制度を知っているが、加入していない
☐	特別加入制度を知らない

「特別加入制度を知っているが、加入していない」と答えた方に伺います。

QD_10b **労災保険特別加入**に入らない理由は何ですか。当てはまるものすべてを選んでください。

※「**労災保険特別加入**」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。

☐	保険料・手数料の全額自己負担は納得できない
☐	保険料・手数料の全額自己負担は経済的に厳しい
☐	仕事上でケガや病気をするのは無いと思う
☐	どの団体を通じて加入するのが良いのか分からない
☐	仕事の仕方が業務委託ではないため加入対象にならない
☐	必要性を感じない
☐	所属団体に労災保険に入っている

QD_11	実演家やスタッフが安心して働くことができるよう、個人負担を軽減して労災保険に加入しやすくするため、事業者（発注者）を含めた業界全体でつくる「 芸術家のための互助プラットフォーム 」（芸能関係作業従事者対象の労災保険特別加入団体の新規設立）が検討されています。この互助プラットフォームが実現された場合、加入したいと思いますか。
-------	--

※「芸術家のための互助プラットフォーム」のリンクをクリックすると説明文が別画面で表示されます。

☐	はい
☐	いいえ
☐	詳しく知りたい

あなたご自身のことについて伺います。

QE_1a	あなたの年齢を入力してください。
-------	------------------

	歳
----------------------	---

QE_1b	あなたの性別を選んでください。
-------	-----------------

☐	男
☐	女
☐	答えたくない

QE_2	あなたの最終学歴を選んでください。
------	-------------------

☐	義務教育修了
☐	高校卒業
☐	専門学校卒業
☐	高専卒業
☐	短大卒業
☐	大学・大学院卒業
☐	その他

QE_3a	現在、生計を同じくするご家族などはいらっしゃいますか。
-------	-----------------------------

☐	いる
☐	いない

QE_3b	お子様はいらっしゃいますか。
-------	----------------

☐	未就学児
☐	小学生・中学生
☐	16～18歳
☐	19歳以上
☐	いない

ご回答ありがとうございました。
第11回「芸能実演家・スタッフの活動と生活実態調査」について、お問い合わせは下記までお願いします。

【お問い合わせ】
公益社団法人日本芸能実演家団体協議会〔芸団協〕
TEL:03-5353-6800（平日11時～17時）
お問合せフォーム <https://pro.form-mailer.jp/fms/5e01223351981>
ウェブサイト <https://eidankyo.or.jp/>